

香南市公共施設等の適正配置に関する方針

令和 6年 3月

香 南 市

目 次

1. 香南市の現状と課題

- (1)背景と目的 1、2、3、4、5
- (2)対象施設 6

2. 適正配置計画の基本理念

- 適正配置計画の基本理念 7、8

3. 適正配置計画の基本方針

- 方針1「新たな公共施設の建設を抑制し、既存施設の長寿命化に取り組みます」 9
- 方針2「公共施設保有量の段階的縮減を行います」 9
- 方針3「住民サービスや地域のコミュニティを維持するよう取り組みます」 9
- 方針4「利用状況やコストの検討を継続的行います」 10

4. 二軸評価による評価と再編方針の決定イメージ

- (1)二軸評価の考え方 11、12、13
- (2)二軸評価によって各グループに分類された施設の取り扱い等について 14、15、16、17

5. 施設類型ごとの施設の維持管理方針と2軸評価

- 01 市民文化系施設_001 集会施設 18、19
- 01 市民文化系施設_002 文化施設 20

02 社会教育系施設_003 図書館	21
02 社会教育系施設_004 博物館等	22
03 スポーツ・レクリエーション系施設_005 スポーツ施設	23、24
03 スポーツ・レクリエーション系施設_006 レクリエーション施設・観光施設	25
03 スポーツ・レクリエーション系施設_007 保養施設	26
04 産業系施設_008 産業系施設	27、28
05 学校教育系施設_009 学校	29
05 学校教育系施設_010 その他教育施設	30
06 子育て支援施設_011 保育所・幼稚園・認定こども園	31
06 子育て支援施設_012 幼児・児童施設	32
07 保健・福祉施設_013 保健施設	33
07 保健・福祉施設_014 高齢福祉施設	34
07 保健・福祉施設_015 その他社会福祉施設	35
08 医療施設_016 医療施設	36
09 行政系施設_017 庁舎等	37
09 行政系施設_018 消防施設	38
09 行政系施設_019 その他行政系施設	39
10 公営住宅_020 公営住宅	40、41、42
11 公園_021 公園	43
12 供給処理施設_022 供給処理施設	44
13 その他_023 その他	45、46、47

1. 香南市の現状と課題

(1)背景と目的

本市の公共施設は、そのほとんどが合併前の旧町村がそれぞれ独自に住民サービスの提供を目的として設置したもので、令和 4 年度末現在の公共建築物の設置数は、367 施設で延床面積は約 26.2 万㎡となっています(「図表 1-1 公共建築物の内訳」参照)。市民 1 人当たりの床面積は約 7.94 ㎡(※ 注 1)となりますが、これは西日本の同規模自治体(人口 3 万人以上 5 万人未満)の平均と比較すると約 1.4 倍(合併あり自治体の 1.2 倍、合併なし自治体の 1.9 倍)となります(「図表 1-2 公共建築物の人口1人当たりの延床面積比較」参照)。また、建築後 30 年が経過した施設が約 6 割となっており、今後20年の間に、これらが一斉に改修・更新時期を迎えようとしています。加えて、施設の機能やサービス内容が重複している施設があるなど、本市として必ずしも適正な配置や総量となっていないのが現状です。

また、全国的に人口減少・少子高齢化が進行する中、本市においても人口減少が進んでおり、国立社会保障・人口問題研究所の『日本の地域別将来推計人口』(令和 5(2023)年)においては、香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンを上回る人口減少の推計がなされています。現実的な問題として、20 年後の人口規模(26,000 人台)と財政状況を見据えて、今後の施設のあり方を考えていかなければなりません(「図表 1-3 人口減少の想定(2020年－2050年)」、「図表 1-4 中期財政計画による収支見通し」、「図表 1-5 今後の維持・更新コストの推計」参照)。

このような背景の下で、長期的な視点を持って公共施設等の適正配置と有効活用及び財政負担の軽減・平準化について立案・実現していくことを目的として、平成 29 年 3 月に「公共施設等総合管理計画」(以下、「総合管理計画」という。)を策定し、令和 3 年 3 月には「香南市公共施設等個別施設計画」(以下、「個別施設計画」という。)を策定していますが、大半の施設において、これまでと同様の維持管理を行うに止まり、公共施設をマネジメントするという観点では十分な内容にはなっていません。

今回、今後本格的な更新時期を迎える中で、総合管理計画及び個別施設計画に基づいた公共施設等のマネジメントをより実効性をもって推進していくための「香南市公共施設等適正配置計画」(以下、「適正配置計画」(※ 注 2)という。)を策定するにあたり、以下に示す基本理念の下、「公共施設等の適正配置に関する方針」を定めます。

(※ 注 1)令和 5 年 3 月末現在の香南市人口 33,001 人で算出しています。

(※ 注 2)適正配置計画の策定は令和6年度中を予定しています。計画の第1期対象期間は、令和7年度から令和 18 年度までの 12 年間とします。

図表 1-1 公共建築物の内訳_施設分類ごとの施設数及び延床面積(一般会計)

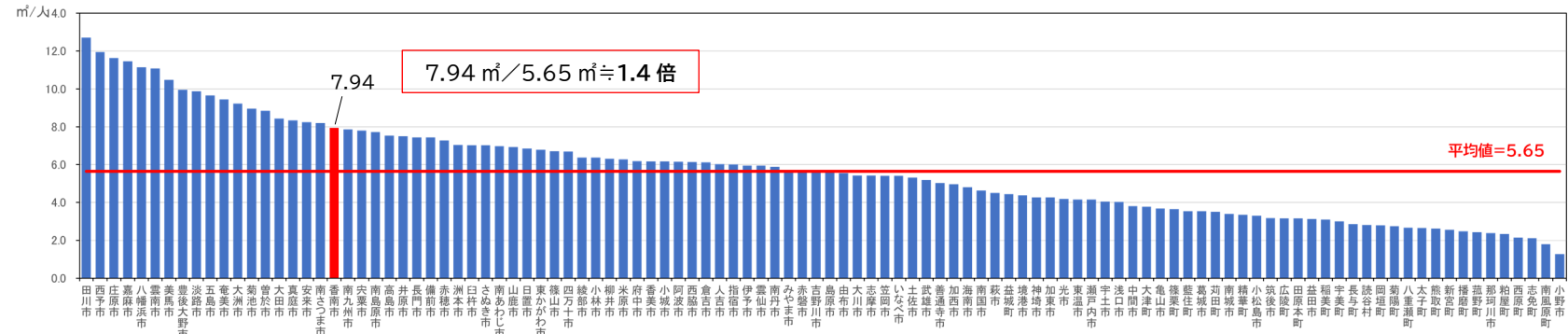
(令和4年度末現在)

大 分 類	中 分 類	施設数	棟 数	延床面積 (㎡)	構成比 (%)	R4 年度年間支出額 (千円) (※ 注1)
01 市民文化系施設	001 集会施設	50	64	20,216.83	7.7	304,427
	002 文化施設	3	5	2,030.88	0.8	38,651
02 社会教育系施設	003 図書館	2	2	2,197.54	0.8	6,488
	004 博物館等	4	13	1,951.25	0.7	21,317
03 スポーツ・レクリエーション系施設	005 スポーツ施設	14	25	8,260.00	3.1	16,236
	006 レクリエーション施設・観光施設	7	23	2,434.84	0.9	14,085
	007 保養施設	3	6	3,430.20	1.3	7,114
04 産業系施設	008 産業系施設	18	39	11,315.78	4.3	75,432
05 学校教育系施設	009 学校	11	102	56,860.93	21.7	434,055
	010 その他教育施設	4	9	6,280.05	2.4	54,632
06 子育て支援施設	011 幼稚園・保育園・こども園	11	36	12,344.51	4.7	74,240
	012 幼児・児童施設	11	15	2,078.87	0.8	28,865
07 保健・福祉施設	013 保健施設	3	6	4,028.36	1.5	12,584
	014 高齢福祉施設	8	10	2,387.92	0.9	7,765
	015 その他社会福祉施設	4	4	3,393.95	1.3	11,045
08 医療施設	016 医療施設	2	6	516.43	0.2	836
09 行政系施設	017 庁舎等	3	8	8,806.86	3.4	34,239
	018 消防施設	20	21	4,565.00	1.7	8,740
	019 その他行政系施設	14	23	6,326.90	2.4	4,658
10 公営住宅	020 公営住宅	123	680	86,240.00	32.9	54,859
11 公園	021 公園	5	6	265.37	0.1	374
12 供給処理施設	022 供給処理施設	9	9	1,199.04	0.5	13,764
13 その他	023 その他	38	45	15,115.67	5.8	19,185
合 計		367	1,157	262,247.18	100.0	1,243,591

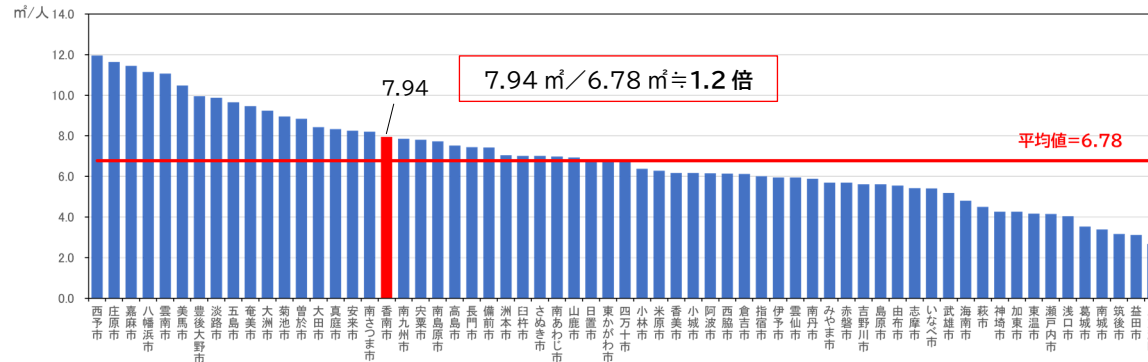
(※ 注1)R4 年度年間支出額は、光熱水費・手数料・委託費・使用料・賃借料・修繕費・工事請負費の合計額。

図表 1-2 公共建築物の人口1人当たりの延床面積比較

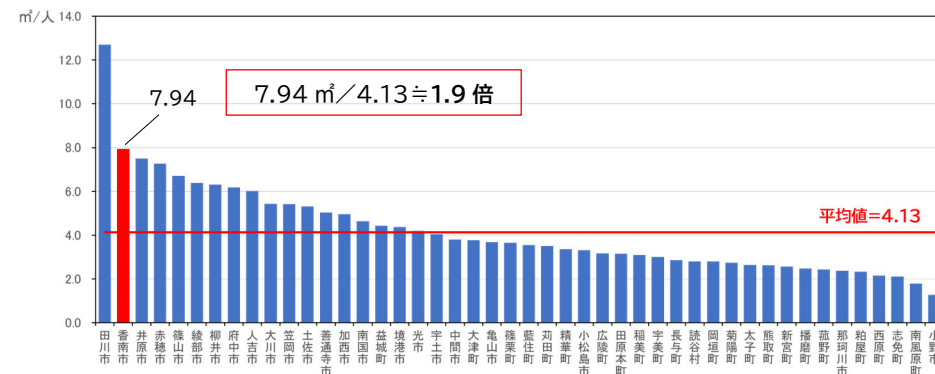
【西日本の同規模自治体との比較(全体__107 市町村)】



【西日本の同規模自治体との比較(合併あり自治体__62 市町)】

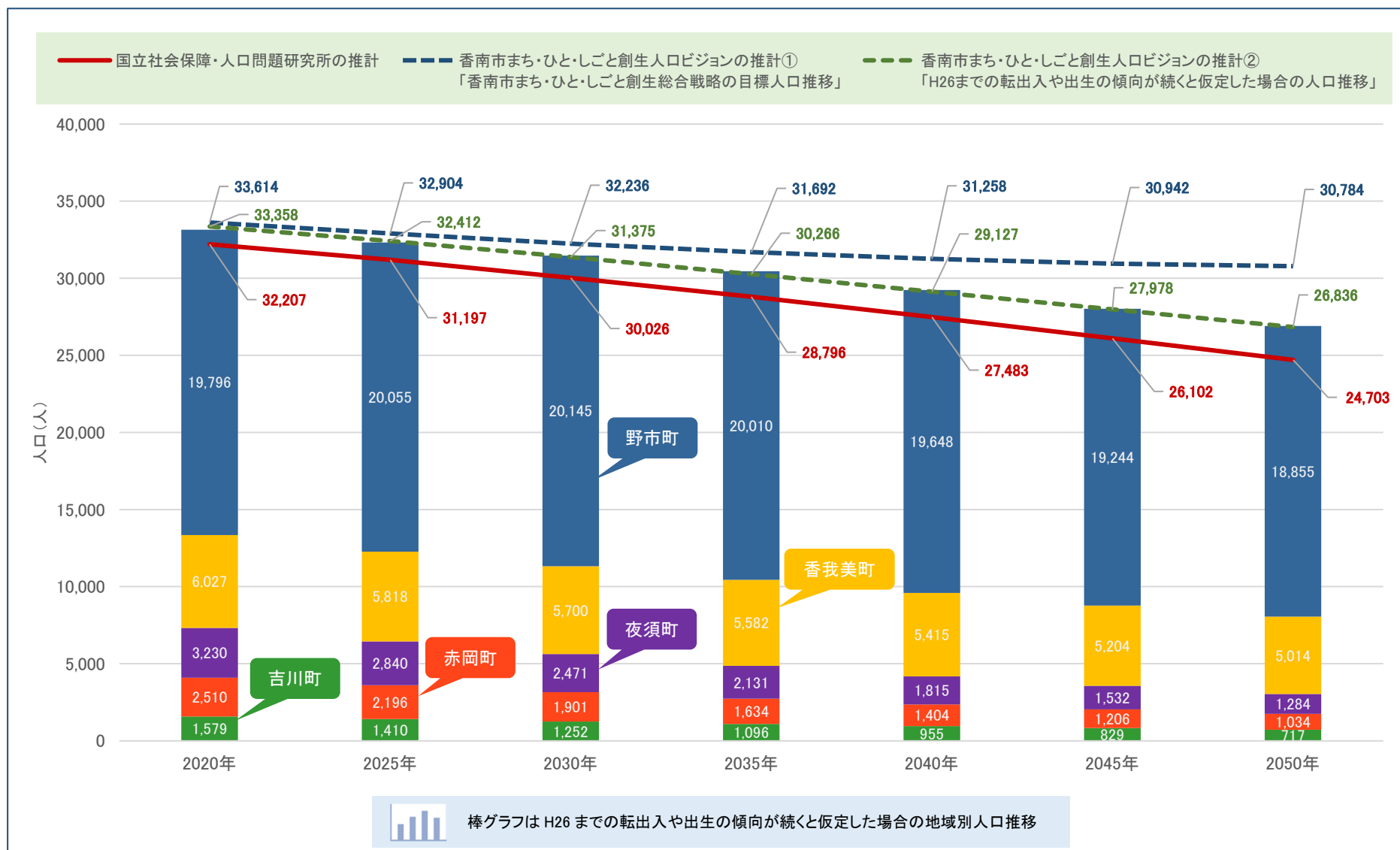


【西日本の同規模自治体との比較(合併なし自治体__45 市町村)】



・R4 年度末現在で公表されている公共施設等総合管理計画より集計
・比較対象は西日本の人口 3 万人以上 5 万人未満の 107 市町村

図表 1-3 人口減少の想定(2020年－2050年)



(出典) ・国立社会保障・人口問題研究所 『日本の地域別将来推計人口』(令和 5(2023)年推計)
・香南市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(平成 28 年2月)

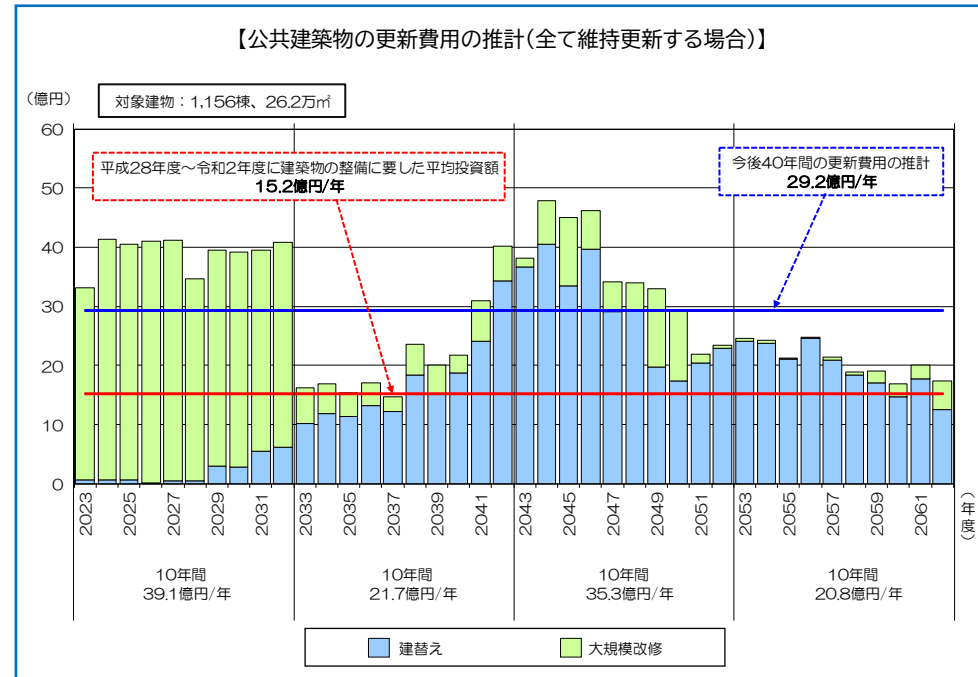
図表 1-4 中期財政計画による収支見通し

単位：千円

	区 分	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年
歳入	市税	3,318,119	3,332,422	3,345,832	3,349,934	3,362,431
	繰入金	375,484	373,528	570,706	470,198	476,799
	使用料及び手数料	329,988	329,985	329,387	329,435	329,387
	その他	719,233	724,135	700,291	720,655	697,844
	自主財源計	4,742,824	4,760,070	4,946,216	4,870,222	4,866,461
	地方交付税	7,463,904	7,506,715	7,490,297	7,456,965	7,438,084
	国庫支出金	3,737,604	3,552,004	3,646,827	3,568,399	3,524,971
	市債	2,845,300	1,223,200	807,400	794,400	718,400
	譲与税・交付金	1,000,939	998,960	998,958	998,410	998,410
	依存財源計	15,047,747	13,280,879	12,943,482	12,818,174	12,679,865
	歳入計	19,790,571	18,040,949	17,889,698	17,688,396	17,546,326
歳出	人件費	4,456,427	4,498,156	4,470,753	4,490,665	4,492,559
	扶助費	3,036,654	3,080,900	3,080,972	3,081,576	3,082,701
	公債費	1,675,561	1,855,687	1,941,441	1,971,768	1,998,223
	義務的経費計	9,168,642	9,434,743	9,493,166	9,544,009	9,573,483
	物件費	2,397,374	2,327,004	2,396,931	2,294,344	2,356,904
	補助費等	2,358,916	2,318,931	2,210,975	2,201,106	2,227,504
	繰出金	1,732,174	1,778,013	1,835,307	1,879,305	1,929,676
	その他	623,040	480,363	462,150	446,372	446,372
	投資的経費	4,026,198	2,003,354	1,996,093	1,761,068	1,666,728
	うち施設更新・改修費	1,069,597	571,917	496,438	497,855	675,008
	歳出計	20,306,344	18,342,408	18,394,622	18,126,204	18,200,667
	収支（歳入－歳出）	▲ 515,773	▲ 301,459	▲ 504,924	▲ 437,808	▲ 654,341

（出典）香南市中期財政計画（令和6年度から10年度） 令和5年11月（抜粋）

図表 1-5 今後の維持・更新コストの推計



（出典）香南市公共施設等総合管理計画 平成 29 年 3 月（令和 4 年 11 月改訂）（抜粋）

中期財政計画において、歳入では、自主財源の根幹を成す市税収入はおおむね横ばいの状況が続く見込みであることから、地方交付税などに大きく依存する本市の歳入構造に変わりはなく、国の動向に左右される状況が続き、歳出では、高齢化の進展などによる扶助費や公共施設などの整備に係る市債の発行による公債費の増により、義務的経費が増加傾向になると予測しています。5年間の収支見通しでは、すべての年度において歳出が歳入を上回り、財源不足の合計は約24億円となります（「図表 1-4 中期財政計画による収支見通し」参照）。

今後見込まれる人口減少と少子高齢化に伴う税収の減少や扶助費の増加などにより、収支不均衡がさらに拡大すれば、財源補てんのための基金もいずれ尽き、行財政運営の健全性や弾力性を保持できず、市民サービスにも大きな影響が生じてしまう恐れがあります。

現在保有する公共建築物について、今後40年間の更新費用を推計すると、約 1,169 億円（年平均29.2億円）となります。平成28年度～令和2年度において、公共建築物の整備に要した投資的経費の平均は約15.2億円であり、この支出水準を今後40年間維持した場合、年間あたり約14.0億円が不足します（「図表 1-5 今後の維持・更新コストの推計」参照）。

(2)対象施設

香南市公共施設等の適正配置に関する方針及び令和6年度の策定を予定している香南市公共施設等適正配置計画については、本市が保有する公共建築物を対象としてマネジメントを推進していくこととします。

道路、橋梁、上下水道などのインフラ系の施設については、基本的には継続が前提となり、個別に計画等が策定されていることから本方針の対象外としますが、香南市公共施設等総合管理計画等の全体的な計画との連携を図りながら、計画的な維持管理に努めていきます。

図表 1-6 インフラ系施設の長寿命化等に係る国及び県の指針等と本市の取組状況

施 設	国・県の指針等	市の計画等
道路・橋梁	○自治体管理・道路橋の長寿命化修繕計画策定マニュアル(案)(H19年3月19日版))	○香南市道橋梁長寿命化修繕計画(2014年03月) ○香南市橋梁の長寿命化修繕計画(第2期)(2018年3月)
トンネル	○高知県道路トンネル点検要領(令和元年9月)	○令和2年度「香南市トンネル長寿命化修繕計画」
上水道	○水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)に関する手引き(平成21年7月、厚生労働省)	○香南市水道事業基本計画(令和2年3月) ○香南市水道施設更新計画(アセットマネジメント)
下水道	○下水道事業におけるストックマネジメントの基本的な考え方(案)(平成20年3月、下水道事業におけるストックマネジメント検討委員会) ○下水道長寿命化支援制度に関する手引き(案)(平成20年4月、国土交通省) ○下水道施設のアセットマネジメント手法に関する手引き(案)(平成23年9月、国土交通省) ○ストックマネジメント手法を踏まえた下水道長寿命化計画策定に関する手引き(案)(平成25年9月、国土交通省)	○香南市公共下水道全体計画(平成24年度) ○香南市公共下水道ストックマネジメント計画

2. 適正配置計画の基本理念

子ども達の未来のために ～将来にわたり持続可能なまちづくりへ～

香南市は、平成18年3月1日「美しい水と緑と風に包まれ元気で豊かに光るまち」という新しいまちの将来像を掲げ誕生しました。それから17年間、住民生活に急激な変化を強いることがないように十分に配慮しながらそうした将来像を見据えて市政運営を進めてまいりました。そのような中、少子高齢化に歯止めはかからず、加えて激甚化・頻発化する自然災害等によって社会全体が大きく変容せざるを得ない状況を迎えています。

香南市として、合併時にみんなで作り上げた目標像である「住民の生活圏の広域化、価値観の多様化なども踏まえ、圏域全体の連携、協働を図りながら、現在の住民も、新たな住民も、手と手を取り合い、活力のある元気なまちづくり」をしっかりと進めていかなければなりません。

そのためにやるべき事の 하나가「公共施設等マネジメント」の推進です。合併以前に5つの町村それぞれで整備してきた公共施設の多くが、老朽化にともなう建替えや改修の時期を迎えようとしています。将来の更新や改修に必要な費用に加え、人口減少と南海トラフ地震発生リスクを踏まえると、現在ある施設をそのまま維持していくことは、子や孫達の未来に大きな負担を残すことになります。

そのような未来にしないために、公共施設等のあり方について見直しを行い、その適正な配置や効率的な管理運営の実現を目指し、市民と共に将来の公共施設のあるべき姿を考え、地道で長い道のりであろうとも私たちのこうした思いを子や孫達の時代に繋ぐことが、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めるための基本となるものと考えます。この考え方を、適正配置計画を策定する上での基本理念とします。

《基本理念の基礎となる3つの要素》

基本理念の基礎となる3つの要素は、以下に示す基本方針の大前提となるものです。今後、建築物に限らず、グラウンド等の屋外施設などの全ての公共施設に対してマネジメントを推進する際にも適用させます。

■将来を見据えた、計画的で適切な施設の配置

- ・合併前の旧町村単位にこだわらず、市全体として考えます。
- ・現在ある施設は耐用年数を迎える 20 年先も使い続ける施設・サービス内容であるかを検討します。
- ・南海トラフ巨大地震等の大規模災害に備えたまちづくりに取り組みます。
- ・津波浸水想定区域内にある公共施設については、地域における創意工夫を尊重したまちづくりを進めます。

■効果的、効率的な施設整備と管理運営

- ・今できることは先送りせずに取り組み、将来の財政負担の軽減・平準化を図ります。
- ・効率的な管理運営に取り組み、コストの縮減を図ります。

■住民サービスの变化に柔軟かつ適切に対応した取り組み

- ・公共施設の適正配置にあたっては、まちづくり協議会や各種関係団体等との意見交換を行いながら進めます。
(公共サービスを提供していない施設や倉庫等についてはこの限りではありません。)

3. 適正配置計画に向けた基本方針

「香南市公共施設等適正配置計画」の策定に向けた基本的な4つの方針を以下に示します。

方針1 「新たな公共施設の建設を抑制し、既存施設の長寿命化に取り組めます」

- ・新たな施設の建設は抑制し、既存の施設の建替えを原則とします。
- ・命を守る施設(津波避難タワー等)を除いて津波浸水想定区域への新たな施設の建設や建替えは抑制します。
- ・継続して使用する施設は、原則長寿命化とします。長寿命化の実施は、今後も利用者が見込まれることや行政サービスの代替性がない場合を前提とします。

方針2 「公共施設保有量の段階的縮減を行います」

- ・今後の人口動態や財政状況を考慮しながら、延床面積の総量を同規模自治体の平均値に近付けることを目標とします。
- ・今後の利活用が見込めない施設は、原則解体とします。
- ・市民サービスの内容が重複する施設や利用の少ない施設は、用途の変更や統合、運営形態の見直しを進めます。
- ・更新による建替えの際は、耐用年数の長い建物とすることを控えることや減築も視野に入れます。
- ・統廃合(複合化や集約化、廃止)は、施設の老朽化や耐用年数、利用者数(稼働率)を勘案して進めます。

方針3 「住民サービスや地域のコミュニティを維持するよう取り組みます」

- ・公共施設の適正配置を実施する際には、DX(※ 注1)や地域内公共交通も併せて検討し、サービス機能の維持や向上に努めます。
- ・施設の統廃合にあたっては、単なる空き地にならないように跡地活用も併せて検討します。
- ・日常的に地域で利用される集会所等については、可能な範囲で地域管理や地域の関連団体への移管(譲渡)を検討します。

方針4 「利用状況やコストの分析を継続的に行います」

- ・施設運営や設備の調達において、幅広く民間の活力を導入することを検討します。
- ・公共施設の有効活用や適正配置、未利用施設等の活用にあたっては、市の財政負担が生じない手法による整備の可能性や施設の付加価値等を把握することを目的に、必要に応じてサウンディング型市場調査(※ 注2)も導入します。
- ・施設の新築や大規模改修、解体等の事業を実施する際には、補助金や有利な起債を積極的に活用します。
- ・施設カルテ(※ 注3)の更新と管理運営に関する評価を毎年実施し、施設の状況把握に努めます。
- ・施設ごとの改修・更新計画(ロードマップ)を作成し、指標(年度数値目標)を定めて計画的な進捗管理に取り組みます。
- ・定期的に施設使用料等の見直しを実施し、受益者負担の適正化を図ります。

(※ 注1)DXとは、「デジタルトランスフォーメーション」の略で、「社会にIT技術を浸透させることで人々の生活をより豊かにする」という概念のことを言います。

(※ 注2)サウンディング型市場調査とは、民間事業者との意見交換等を通し、事業に対して様々なアイデアや意見を把握する調査のことを言います。

(※ 注3)施設カルテとは、本市が所有する公共施設(インフラ系の施設は除く)ごとに、施設名称や所在地などの基本情報、利用状況、施設の管理運営に係るコストなどに関する情報をまとめたものです。

4. 二軸評価による評価と再編方針の決定イメージ

(1) 二軸評価の考え方

二軸評価は、施設ごとに「建物評価」と「機能評価」を行い、偏差値により相対的に比較することで、類似施設グループ(施設類型)内でそれぞれの施設がどのような位置づけにあるかを見える化しています。

①建物評価(横軸)

比較対象は本市の全施設としています。

築年数と耐震性を点数化し、偏差値計算をしています(「図表 4-1 施設評価票」参照)。

②機能評価(縦軸)

施設毎に利用用途が異なるため、施設類型毎(集会施設、文化施設等)に比較しています。(※ 注1)

施設カルテ等のデータから、利用状況や維持管理コストを検証し点数化しています。加えて、量や質では判断できない要素(公共性、有効性、代替性、まちづくり)についても評価を行い点数化し、偏差値計算をしています(「図表 4-1 施設評価票」参照)。

③総合評価

総合評価は、建物評価(横軸)と機能評価(縦軸)のそれぞれの要素を二軸で評価し、AからDの4つの評価グループに分けています。(「図表 4-2 二軸評価のイメージ」参照)。

④総合評価後の施設の見直しについて

見直しは、AからDのどのグループに属しているかに関わらず全ての施設を対象とします。

ただし、見直しの検討に取り掛かる順番としては以下の考え方に基きます。

ア. 使用頻度が低く、コストがかかっているもの

イ. 耐用年数が直近の10年以内に到来するもの

(※ 注1)施設類型毎から、更に規模や地域、機能が同様の施設毎にまとめて評価しています。

例えば、「13 その他_023 その他」では、駅舎、津波避難タワー、トイレ、その他の4種類に分けて比較しています。

図表 4-1 施設評価票

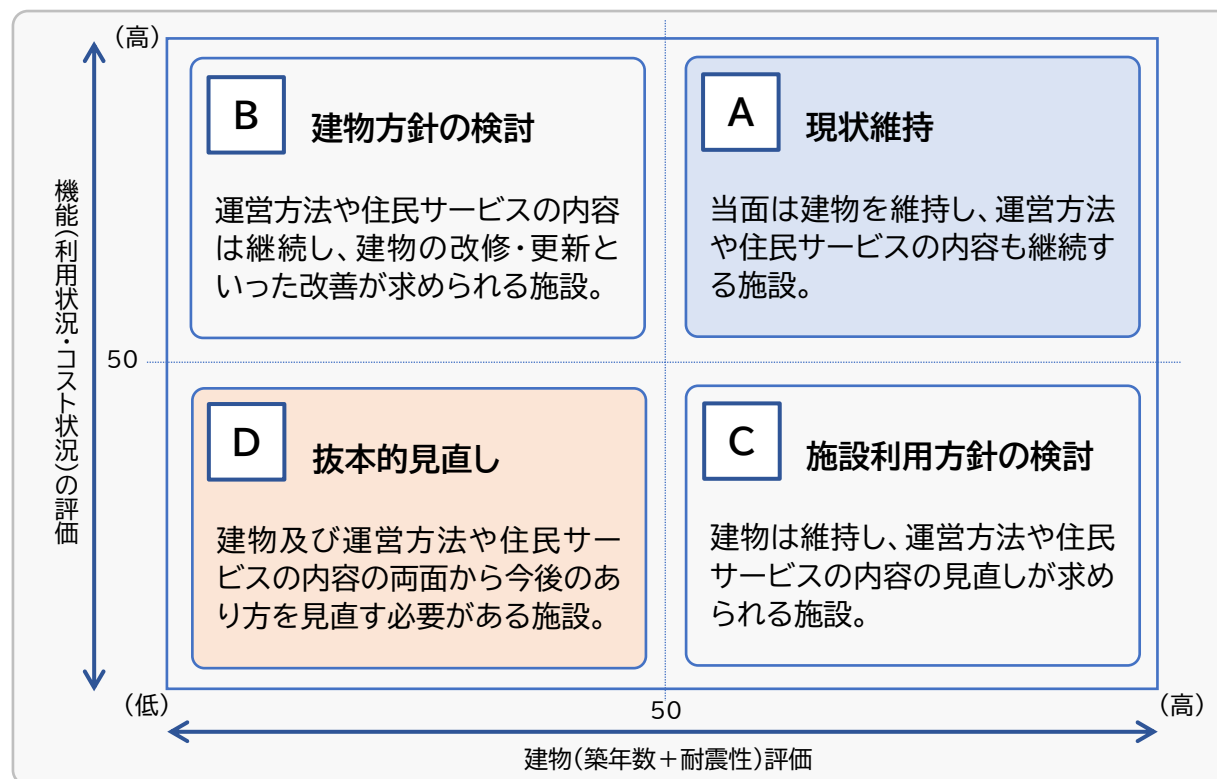
●建物評価(横軸)

区分	No.	評価項目	評 価	
			考え方	確認事項
品質	①	主要建物の築年数	建築後の経過年数が少ない施設ほど高い評価	老朽化の度合い
	②	健全度	施設点検調査の結果を適用（※現時点では該当なし）	－
	③	耐震性能	耐震性能の有無で評価	耐震性能

●機能評価(縦軸)

区分	No.	評価項目	評 価	
			考え方	確認事項
供給・財務	①	年間利用者	施設全体の年間利用者数により評価	利用状況
	②	1㎡当たりの利用者	延床面積 1㎡当たりの利用者数により評価	利用効率
	③	利用者当たりの維持管理コスト	利用者当たりの維持管理コストにより評価	費用対効果
	④	1㎡あたりの維持管理コスト	延床面積 1㎡当たりの維持管理コストにより評価	
施設の特性	公共性	① 利用実態が設置目的に即しているか	利用実態を踏まえ、どのような利用のされ方をしているかで評価	目的
		② 法律等により設置が義務付けられている施設か	根拠となる法律、条令等の有無で評価	設置根拠
	有効性	③ 今後の利用者数の見込みはどうか	利用者の見込みを想定して評価	利用見込み
		④ 施設の利用実態から利用圏域はどうか	利用の実態からみて、概ねどの圏域の住民の利用が多いかで評価	サービス提供範囲
	代替性	⑤ 類似機能を有する民間施設や公共施設に代替が可能な施設か	同様の機能を有した民間施設や公共施設の有無で評価	代替の可能性
		⑥ 管理運営において、民間事業者のノウハウが活用できる施設か	本市及び周辺自治体において、指定管理、業務委託等による管理運営を委託した実績の有無等により評価	
	まちづくり	⑦ まちづくりの観点から特筆すべき事項があるか	本市の各種計画や施策に位置付けられた重要な役割を担う施設であるかによって評価	特別な役割
		⑧ 他の利用用途が存在するか	従来の利用目的以外の別な利用用途の存在や特別な指定を受けているかによって評価	
	状況	⑨ 利用状況	現在の利用状況や継続利用のニーズを踏まえ評価（※市営住宅のみ）	市営住宅の利用状況
立地条件	①	土砂災害警戒区域又は特別警戒区域内にあるか(急傾斜地)	イエローゾーン、レッドゾーンに該当していれば低い評価	移転要素
	②	土砂災害警戒区域又は特別警戒区域内にあるか(土石流)	同上	
	③	津波災害警戒区域内にある	イエローゾーンに該当していれば低い評価	
	④	洪水浸水想定区域内にある	区域内に該当していれば低い評価	

図表4-2 二軸評価のイメージ



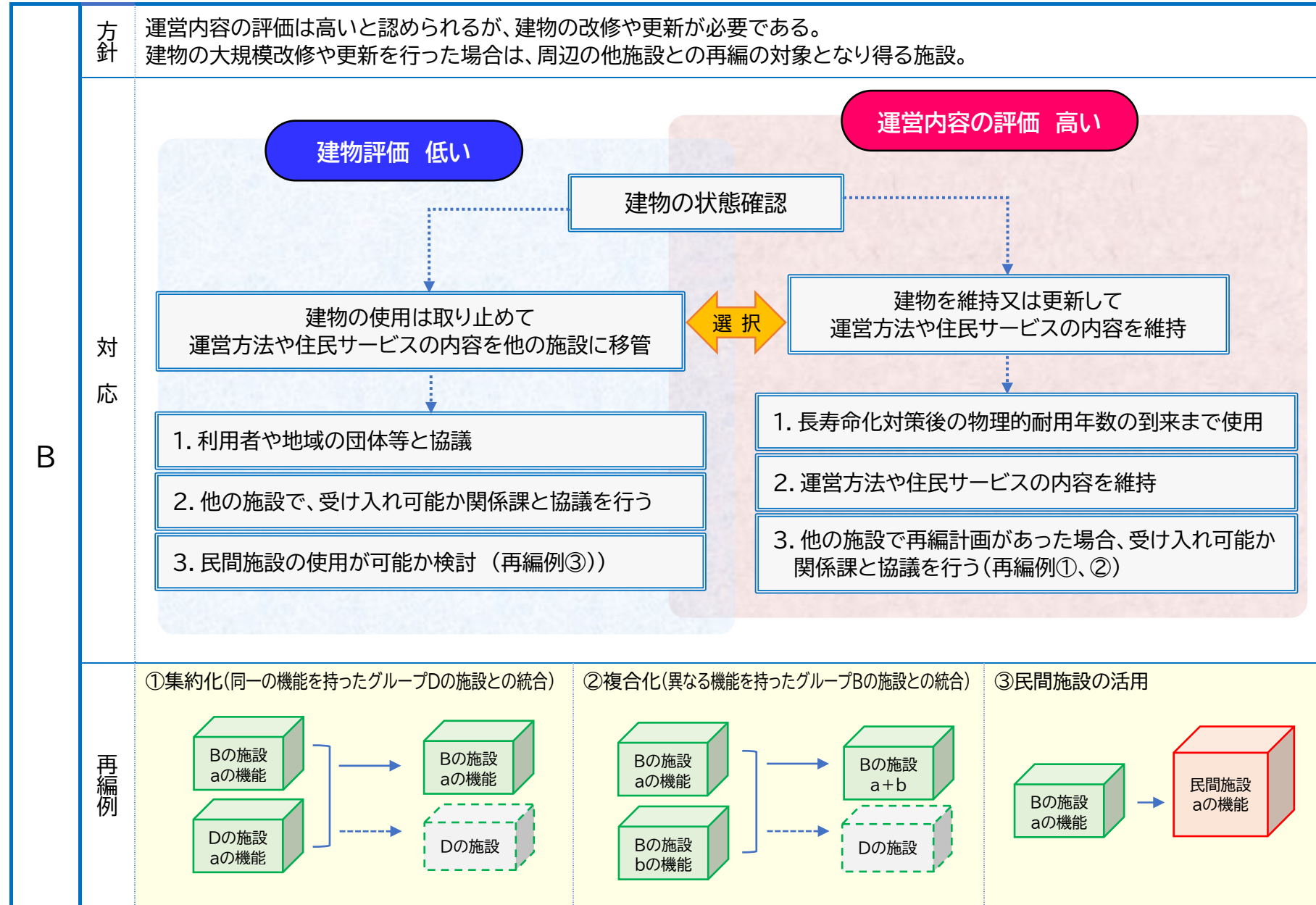
評価グループ及び評価項目	内 容
A 現状維持	建物の評価が高く、運営方法や住民サービス内容・コスト面など機能の評価も高い。
B 建物方針の検討	老朽化が進んでいるなど、建物の評価が低い。 運営方法や住民サービスの内容・コスト面など機能の評価は高い。
C 施設利用方針の検討	建物の評価が高い。 運営方法や住民サービスの内容・コスト面など機能の評価は低い。
D 抜本的見直し	建物の評価及び機能の評価も低い。 施設そのもののあり方を見直すことが求められている。

(2)二軸評価によって各グループに分類された施設の取り扱い等について

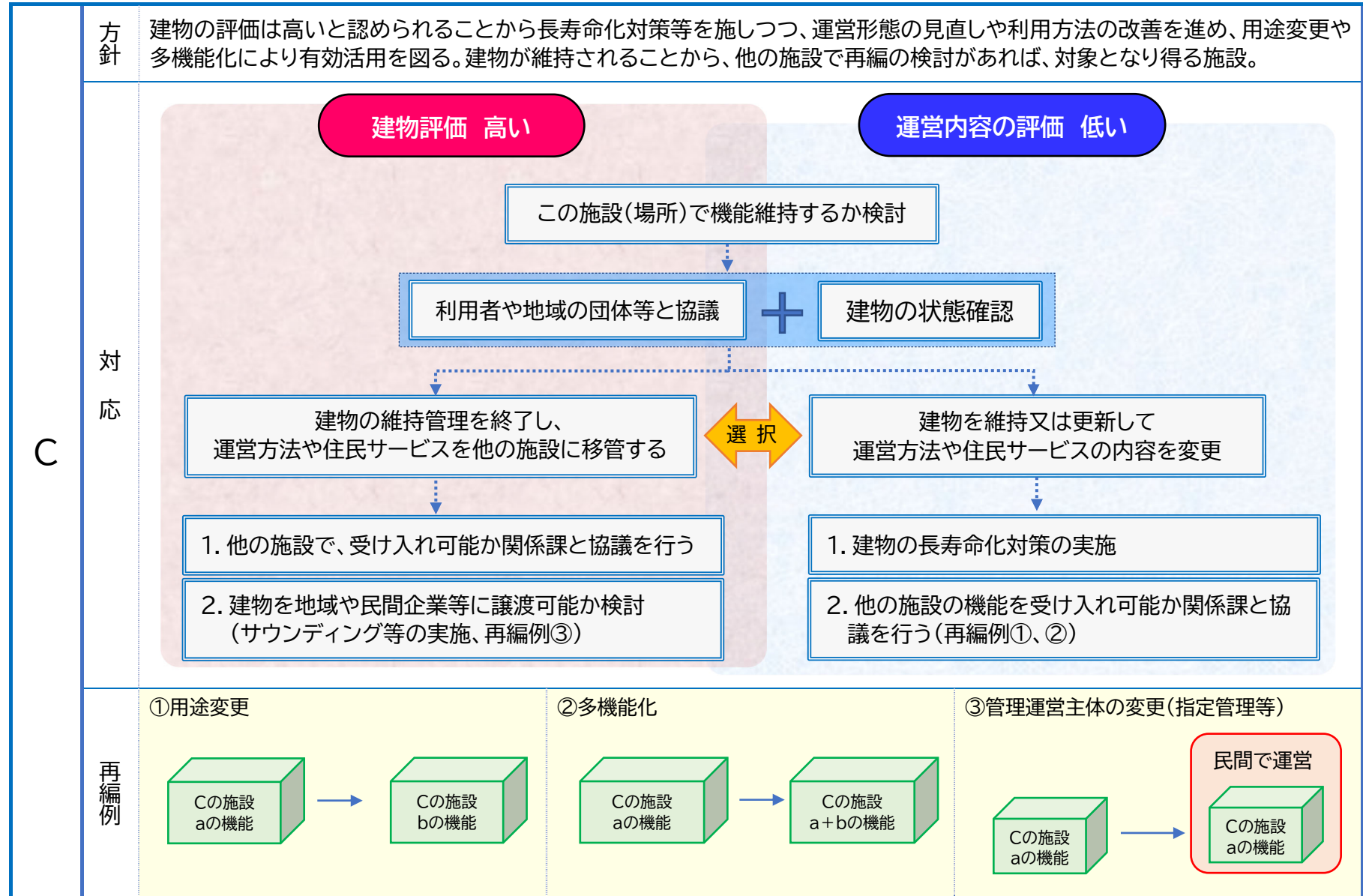
①グループA

方針	現時点で、建物・運営内容ともに評価が高い施設であることから、長寿命化対策等を施しながら当面は現状維持とする。他の施設で再編の検討があれば、対象となり得る施設。
A 対応	建物評価 高い 運営内容の評価 高い 建物の長寿命化対策の実施 + 運営方法や住民サービスの内容を維持 ↓ 1. 建物は長寿命化対策後の物理的耐用年数の到来まで使用 2. 運営方法や住民サービスの内容を維持 3. 他の施設で再編計画があった場合、受け入れ可能か担当課間で協議を行う
再編例	①集約化(同一の機能を持ったグループDの施設との統合) ②複合化(異なる機能を持ったグループBの施設との統合)

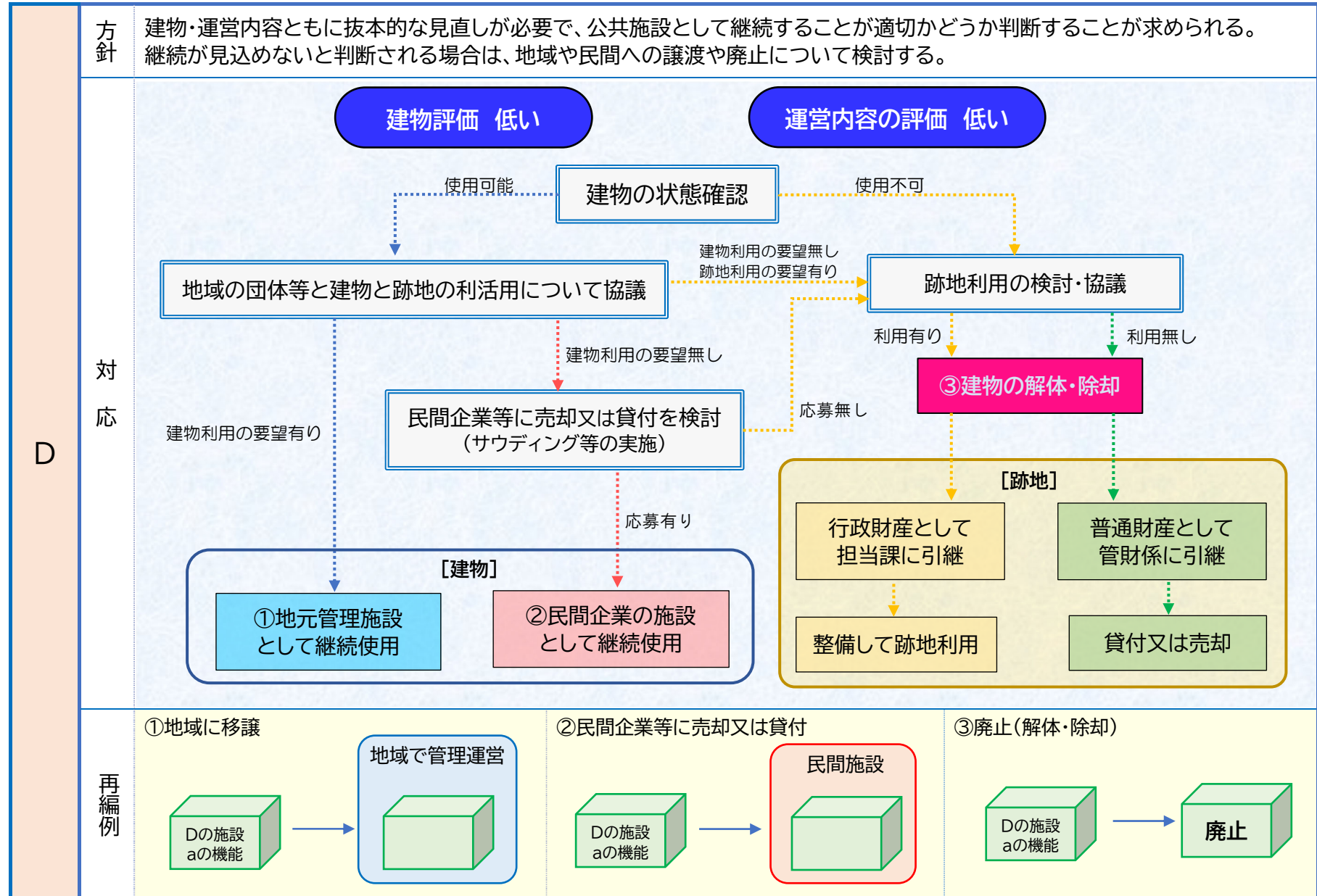
②グループB



③グループC



④グループ D



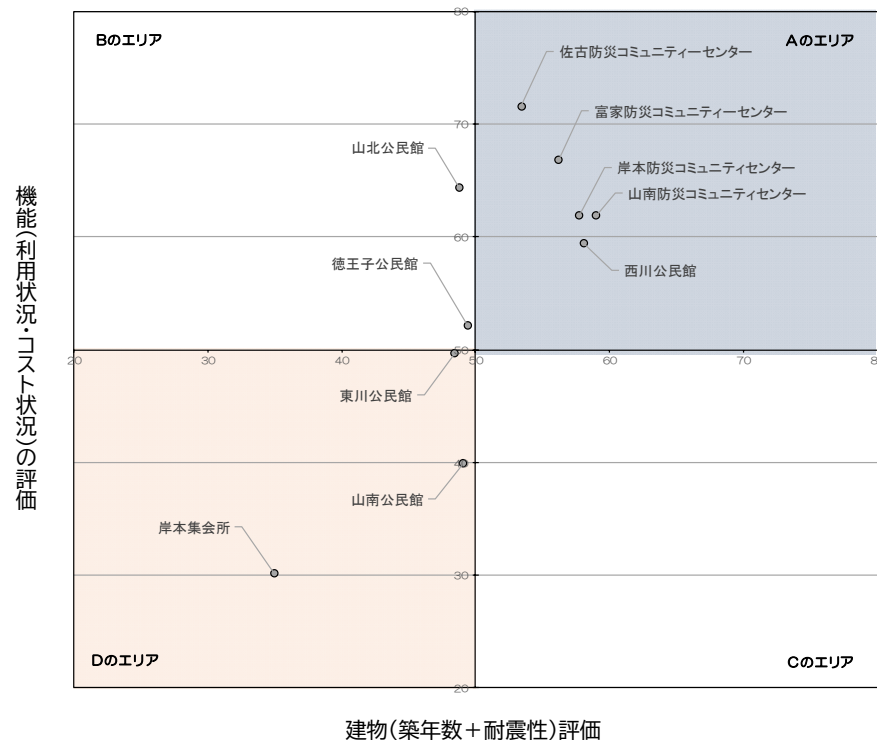
5. 施設類型ごとの施設の維持管理方針と二軸評価

01 市民文化系施設_001 集会施設	
施 設	
野市中央公民館(のいちふれあいセンター)、香我美市民館、夜須公民館(夜須支所)、佐古防災コミュニティセンター、富家防災コミュニティセンター、岸本防災コミュニティセンター、山南防災コミュニティセンター、吉川防災コミュニティセンター、みどり野東公民館、徳王子公民館、山南公民館、山北公民館、西川公民館、東川公民館、奈良公民館、舞川公民館、手結会館、夜須北部会館、栄町集会所、別所山集会所、曙集会所、江見集会所、弁天横町集会所、寿集会所、南町集会所、浜松集会所、北部集会所(須留田集会所)、中浜集会所、的場団地集会所、岸本集会所、西山集会所、出口集会所、塩谷集会所、行間集会所、辰の口集会所、国光集会所、菖蒲谷集会所、夜須駅前集会所、坪井集会所、新裏町集会所、夜須西町集会所、上夜須集会所、夜須川集会所、吉川東部集会所、吉川北部集会所、吉川西部集会所、古川集会所、浜口集会所、錦集会所、清水八反集会所	
数量の適正性に関する基本的な考え方	二軸評価
・社会的情勢等によって変化する利用状況や必要性について確認しつつ、市民サービスの質を落とさないよう、継続・廃止等適正配置について検討します。 ・大規模、中規模な施設については、利用を促進するとともに、機能面の見直しや運営方法の合理化を推進し、施設の集約化や複合化を検討していきます。 ・小規模な集会施設や公民館については市民活動の拠点として捉え、地域人口の変動や社会的なニーズに柔軟に対応し、計画的に維持・更新を行います。 ・施設の性質上、域外への移転が困難な施設(吉川防災コミュニティセンター)については、『継続』を目指します。	■大規模 1,000 m²以上 機能(利用状況・コスト状況)の評価 建物(築年数+耐震性)評価
品質の適正性に関する基本的な考え方	
・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。 ・防災機能を強化し、災害時における避難所としての機能を確保します。 ・地域の活性化を図るため、コミュニティの拠点としての機能を維持します。	
コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方	
・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。 ・社会的要求水準を維持しながら、利便性の向上や利用者の増加に努めつつ、適正な利用者負担を求めることで、より効率的かつ効果的な施設運営を図ります。 ・維持管理費用については省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。	

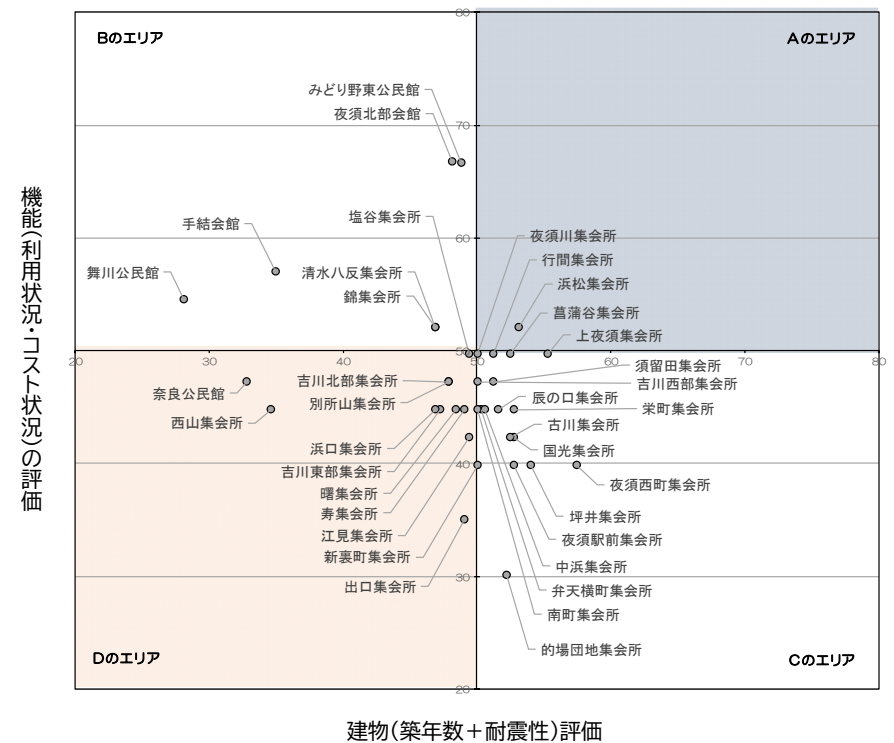
01 市民文化系施設_001 集会施設

二軸評価

■中規模 300㎡以上 1,000㎡未満



■その他



01 市民文化系施設_002 文化施設

施 設

赤岡町弁天座、天然色劇場、老人憩の家森田館

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・社会的情勢等によって変化する利用状況や必要性について確認しつつ、継続・廃止等適正配置について検討します。
- ・地域の発展と活発なコミュニティ作りに寄与する拠点については、基本的に継続を目指します。

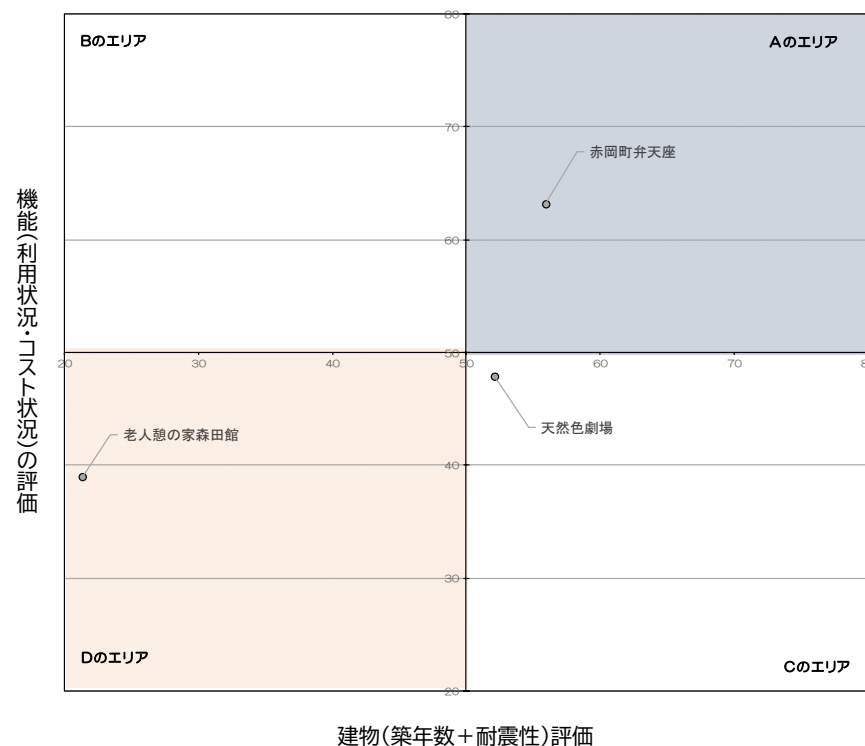
品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果及び施設管理者の意見等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・維持管理費については、省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。
- ・定期的な点検と早期の対応で、計画的な維持修繕を行うことで、施設の長期的な利用とコストダウンを図ります。
- ・施設の運営については、効率化と機能性を重視し、指定管理や民間委託、その他民間施設との連携等について検討します。

二軸評価



02 社会教育系施設_003 図書館

施設

野市図書館、香我美図書館

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・社会的情勢等によって変化する利用状況や必要性について確認しつつ、市民サービスの質を落とさないよう、継続・廃止等適正配置について検討します。

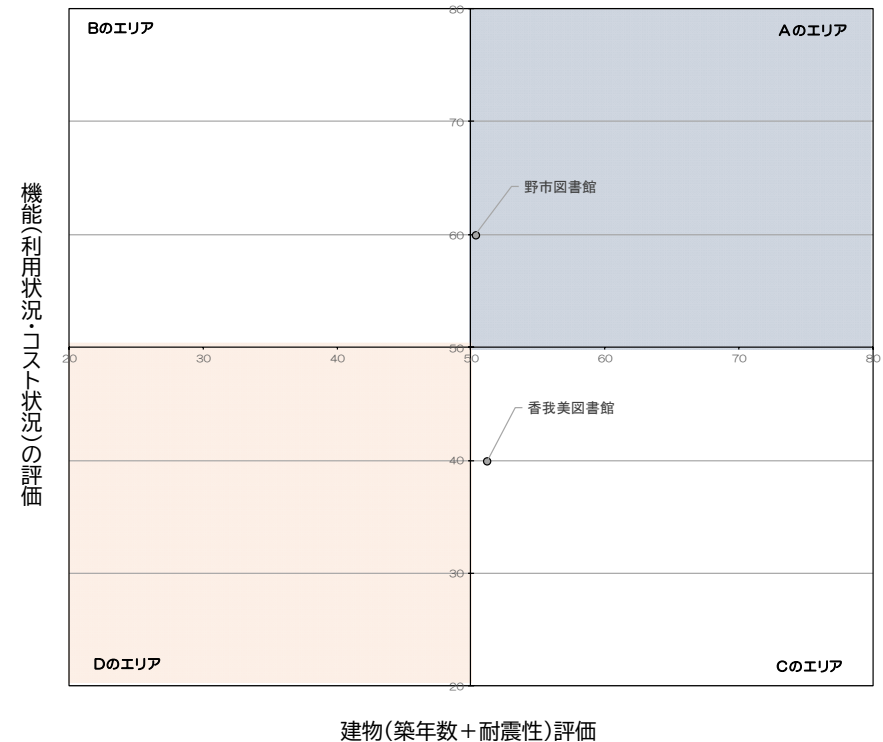
品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・地元関連団体等と連携を図りながら、利用環境の向上と積極的な利用を推進します。
- ・多様化するニーズに対応できる柔軟かつ持続可能な質の高いサービス提供を目指します。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・利用者の増加に努めつつ、より効率的かつ効果的な施設運営を図ります。
- ・施設の老朽化状況を把握して、計画的な維持修繕を行い、長期的なライフサイクルコストの縮減を行っていきます。
- ・維持管理費用については、省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。

二軸評価



02 社会教育施設_004 博物館等

施設

森田正馬生家、赤岡町絵金蔵、文化財センター、文化財センター倉庫

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・地域の歴史や文化の特色を活かし、地域の発展と活発なコミュニティ作りに寄与する社会教育の拠点として、基本的に継続を目指します。
- ・森田生馬生家や赤岡町絵金蔵は、市の歴史と文化を現在に伝える貴重な存在となっています。近年における国民の文化財に対する関心の高まりに伴い、文化関連施設の設置の動きが活発化していますが、『歴史文化の継承』、『地域活性』のための重要な資産として位置付け、保存と活用を推進します。

品質の適正性に関する基本的な考え方

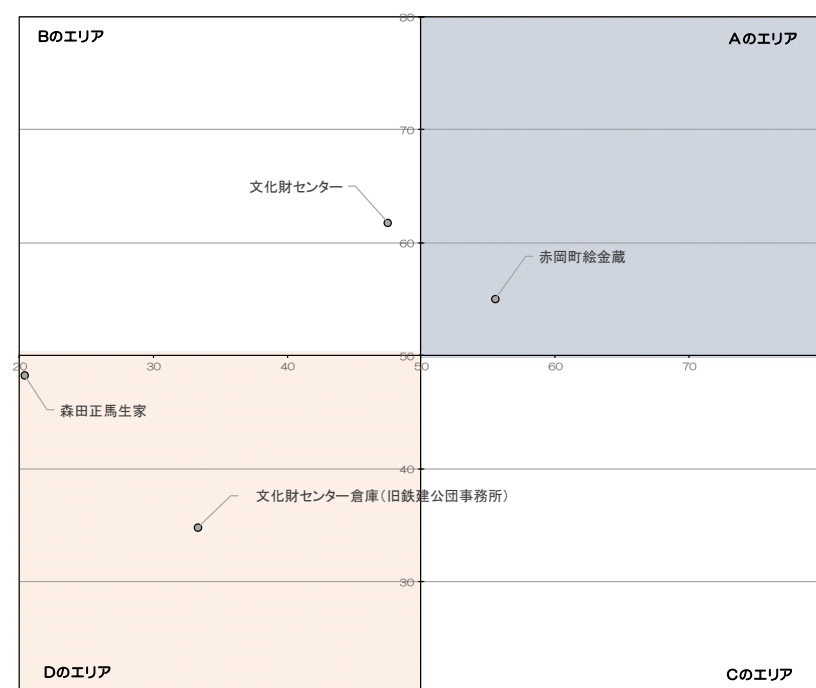
- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・施設の維持管理に努め、地元関連団体と連携を図りながら、利用環境の向上と積極的な利用を推進します。
- ・歴史遺産の適切な保存に努めます。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・施設の老朽化状況を把握して、計画的な維持修繕を行い、長期的なライフサイクルコストの縮減を行っていきます。
- ・維持管理費用については、省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。

二軸評価

機能(利用状況・コスト状況)の評価



建物(築年数+耐震性)評価

03 スポーツ・レクリエーション系施設_005 スポーツ施設

施 設

野市総合体育館、香我美トレーニングセンター、手結体育館、野市ふれあい広場、山下グリーンテニスコート クラブハウス、西佐古テニスコート・フットサルコート 管理棟、野市運動公園、赤岡運動広場、赤岡全天候型運動広場(赤岡ドーム)、香我美運動広場、千舞温泉多目的広場(ゲートボール場)、夜須運動広場、マリンスポーツ施設、ポートマリーナ

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・社会的情勢等によって変化する利用状況や必要性について確認しつつ、サービスの質を落とさないよう、継続・廃止等適正配置について検討します。
- ・市民のスポーツ活動の拠点となっている施設については、基本的に継続を目指します。

品質の適正性に関する基本的な考え方

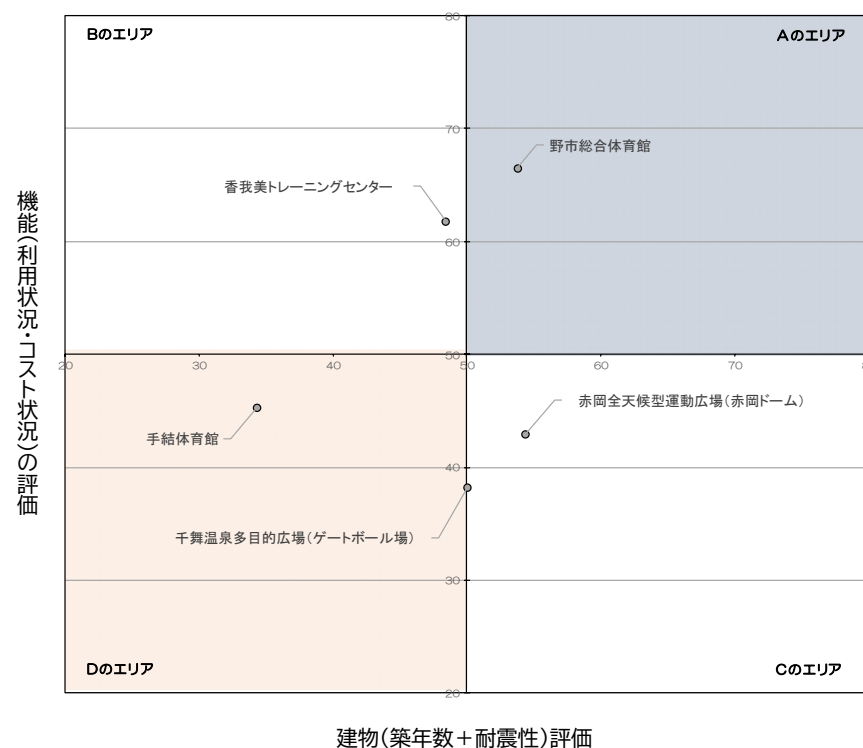
- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・関連団体や施設管理者と連携しながら管理運営体制の充実を図り、利用環境の向上と利用促進に努めます。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・維持管理費用については省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。
- ・利用者の増加に努めつつ、適正な利用者負担を求めることで、より効率的かつ効果的な施設運営を図ります。

二軸評価

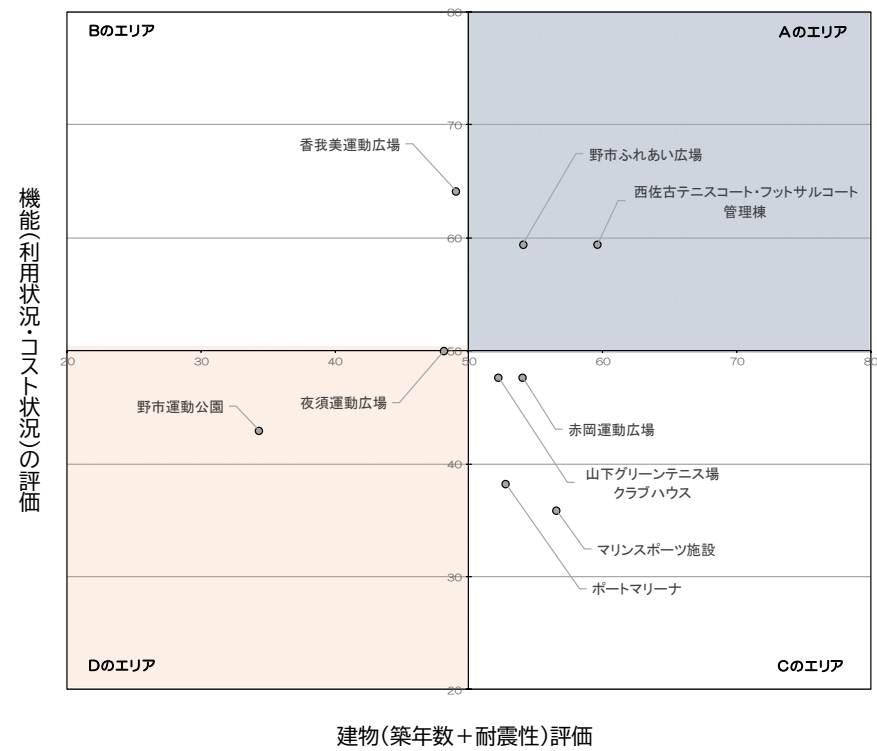
■スポーツ施設



03 スポーツ・レクリエーション系施設_005 スポーツ施設

二軸評価

■管理棟・倉庫・便所



03 スポーツ・レクリエーション系施設_006 レクリエーション施設・観光施設

施 設

舞川キャンプ場、舞川キャンプ場管理事務所、旧北部小学校・中学校、旧舞川消防車庫、地場産業活性化交流プラザ、香南市地域情報センター、ヤ・シィ広場レンタルサイクル施設

数量の適正性に関する基本的な考え方

・社会的情勢等によって変化する利用状況や必要性について確認しつつ、サービスの質を落とさないよう、継続・廃止等適正配置について検討します。

品質の適正性に関する基本的な考え方

・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。

・観光資源の保全に努め、本市の強みを生かした観光資源整備と維持管理を行います。

・関連団体や施設管理者と連携しながら管理運営体制の充実を図り、利用環境の向上と利用促進に努めます。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

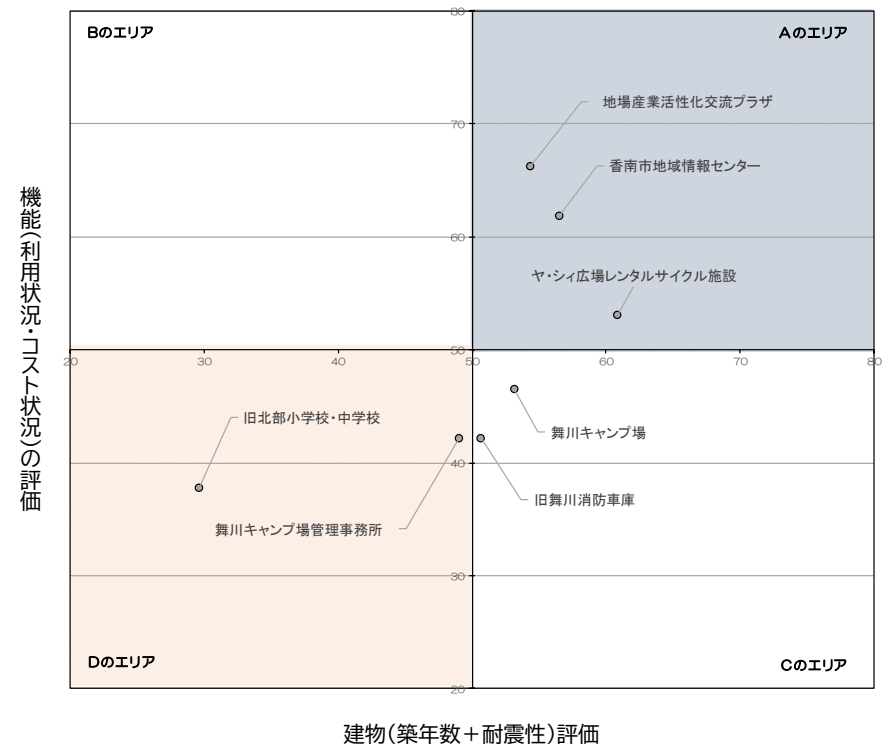
・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。

・維持管理費用については、省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。

・施設の老朽化状況を把握して、計画的な維持修繕を行い、長期的なライフサイクルコストの削減を行っていきます。

・利用者の増加に努めつつ、適正な利用者負担を求めることで、より効率的かつ効果的な施設運営を図ります。

二軸評価



03 スポーツ・レクリエーション系施設_007 保養施設

施 設

自然休養村管理センター、サイクリングターミナル、羽尾林業活動活性化センター(大釜荘)

数量の適正性に関する基本的な考え方

・社会的情勢等によって変化する利用状況や必要性について確認しつつ、市民サービスの質を落とさないよう、継続・廃止等適正配置について検討します。

品質の適正性に関する基本的な考え方

・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。

・観光資源の保全に努め、本市の強みを生かした観光資源整備と維持管理を行います。

・関連団体や施設管理者と連携しながら管理運営体制の充実を図り、利用環境の向上と利用促進に努めます。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

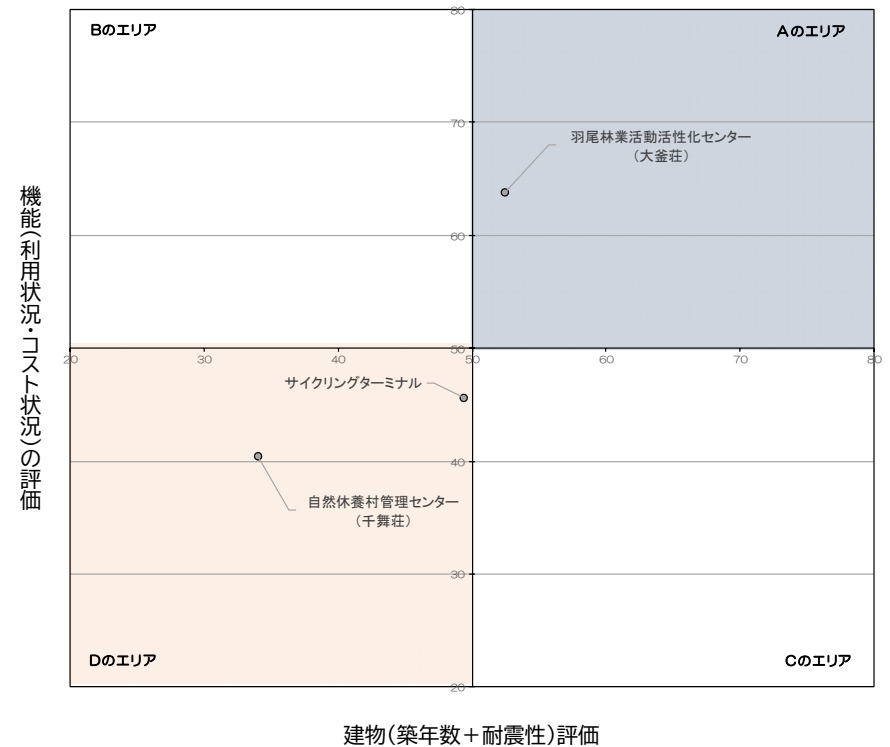
・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。

・維持管理費用については、省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。

・施設の老朽化状況を把握して、計画的な維持修繕を行い、長期的なライフサイクルコストの縮減を行っていきます。

・利用者の増加に努めつつ、適正な利用者負担を求めることで、より効率的かつ効果的な施設運営を図ります。

二軸評価



04 産業系施設_008 産業系施設

施設

農村多元情報システム施設、野市町砂糖製造施設、実践型研修ハウス 付属作業小屋(農業用倉庫)1号～6号、赤岡農業用共同粉乾燥処理施設、赤岡(第2)共同利用農機具保管庫、農機具保管庫(古川排水機場北)、赤岡漁港、吉川漁港、水産振興施設、第1直販所・共同加工施設、第2直販所・共同加工施設、旧ミネルバ

数量の適正性に関する基本的な考え方

・社会的情勢等によって変化する利用状況や必要性について確認しつつ、市民サービスの質を落とさないよう、継続・廃止等適正配置について検討します。

※現在の利用状況:旧ミネルバ__障害福祉サービス事業所、倉庫

品質の適正性に関する基本的な考え方

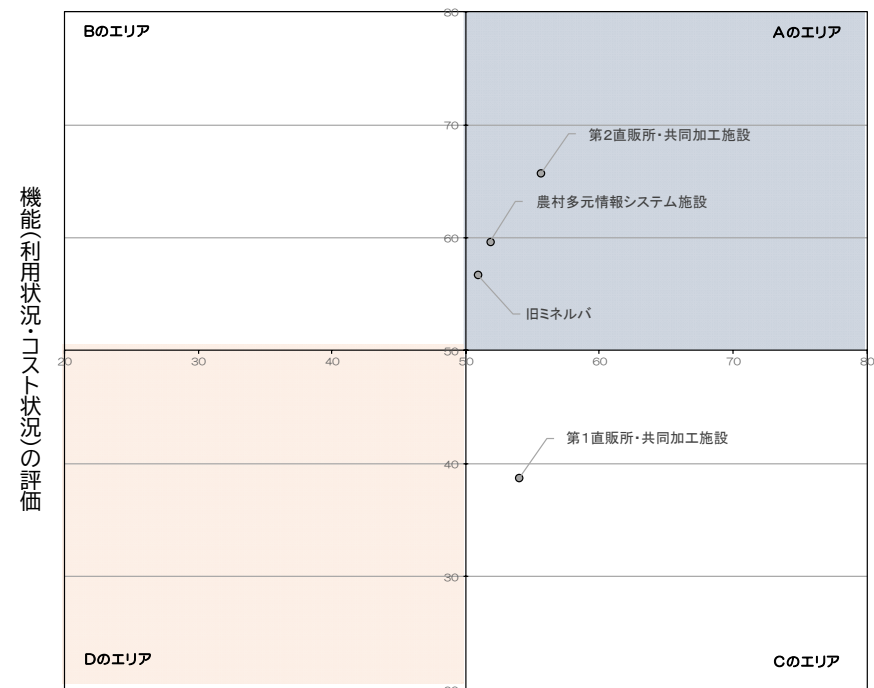
・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
・施設の用途や利用状況を把握した上で、関連団体や施設管理者と連携しながら、危険箇所や要補修箇所の早期発見に努めます。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
・施設の老朽化状況を把握して、計画的な維持修繕を行い、長期的なライフサイクルコストの削減を行っていきます。
・維持管理費用については省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。
・利便性の向上や社会的要求水準を維持しながら、施設の利用率を高め、業務の効率化や運営の合理化により、コスト削減を推進していきます。

二軸評価

■商工業関係



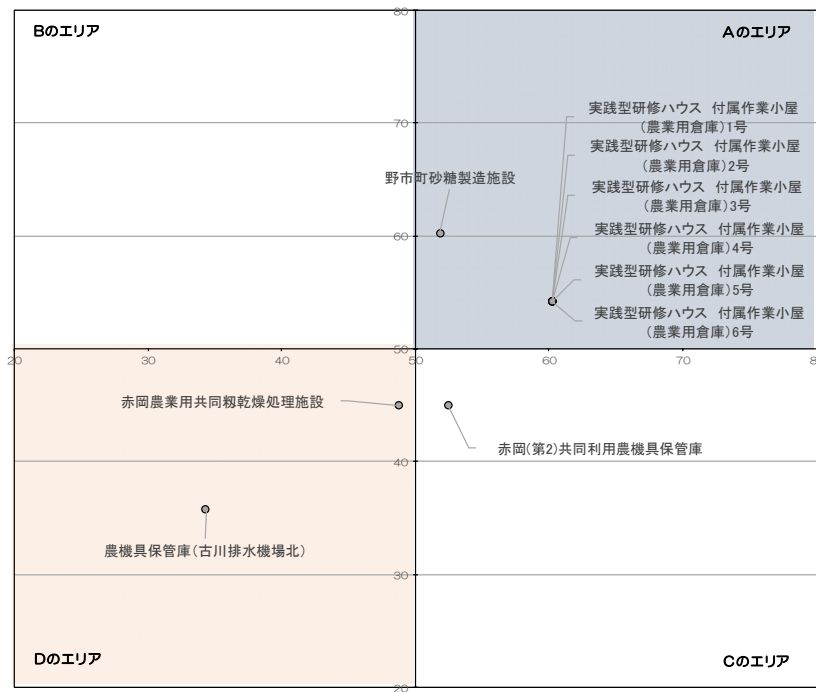
建物(築年数+耐震性)評価

04 産業系施設_008 産業系施設

二軸評価

■農業関係

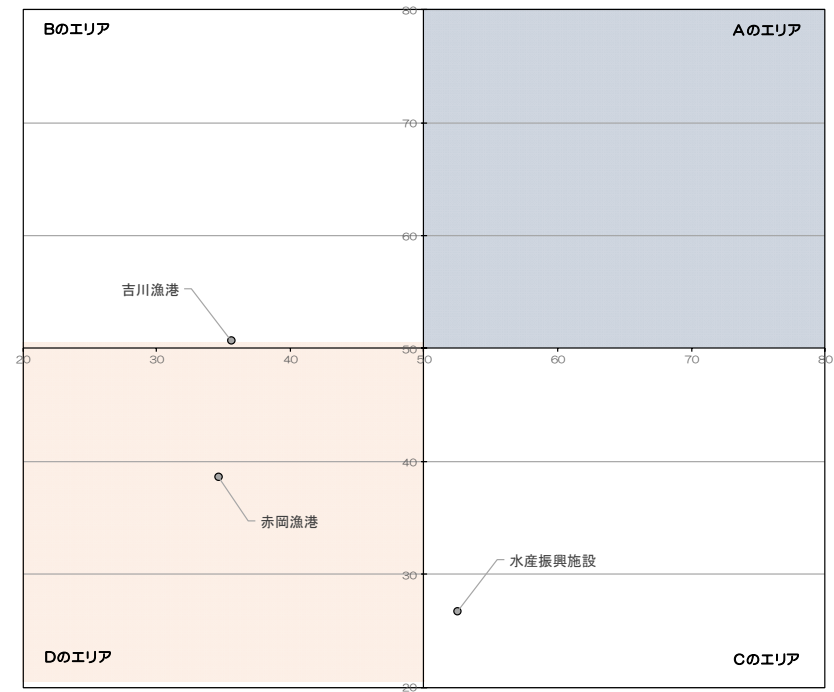
機能（利用状況・コスト状況）の評価



建物(築年数+耐震性)評価

■漁業関係

機能（利用状況・コスト状況）の評価



建物(築年数+耐震性)評価

05 学校教育系施設_009 学校

施 設

野市小学校、野市東小学校、佐古小学校、赤岡小学校、香我美小学校、夜須小学校、吉川小学校、野市中学校、赤岡中学校、香我美中学校、夜須中学校

数量の適正性に関する基本的な考え方

・「香南市学校等の規模適正化等基本方針」に基づいた対応とします。

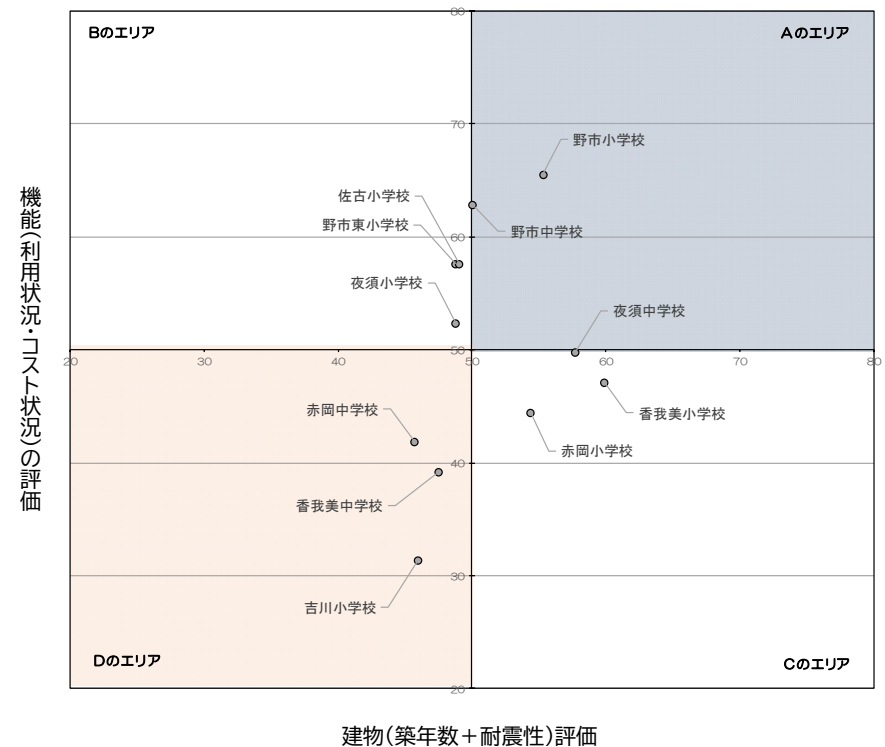
品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・老朽化状況を把握し、安心安全面を考慮しながら、効率的かつ効果的な維持修繕を行っていきます。
- ・各施設について、安全確保に必要不可欠な整備を行います。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・定期的に点検・診断を行い、危険箇所又は要補修箇所の早期発見に努め、修繕費の縮小に努めます。
- ・維持管理費用については省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。

二軸評価



05 学校教育系施設_010 その他教育施設

施 設

こうなん学校給食センター、赤岡・吉川給食センター、香南市教育支援センター森田村塾、岸本小学校

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・こうなん学校給食センターは、現状維持とします。
- ・赤岡・吉川給食センターは、施設が老朽化していることと効率的な運営を図ることを目的として、機能をこうなん学校給食センターへ統合します。赤岡・吉川給食センターの一部は、赤岡小学校の新たな給食受入口として活用します。また、2 階会議室についても赤岡小学校で活用します。
- ・森田村塾は、入塾者等のニーズも把握しながら継続していきます。
- ・岸本小学校は、施設の老朽化が著しく外壁の剥離など危険な状況が確認されるため、今後の施設のあり方については地元を交えた慎重な検討が必要となっています。

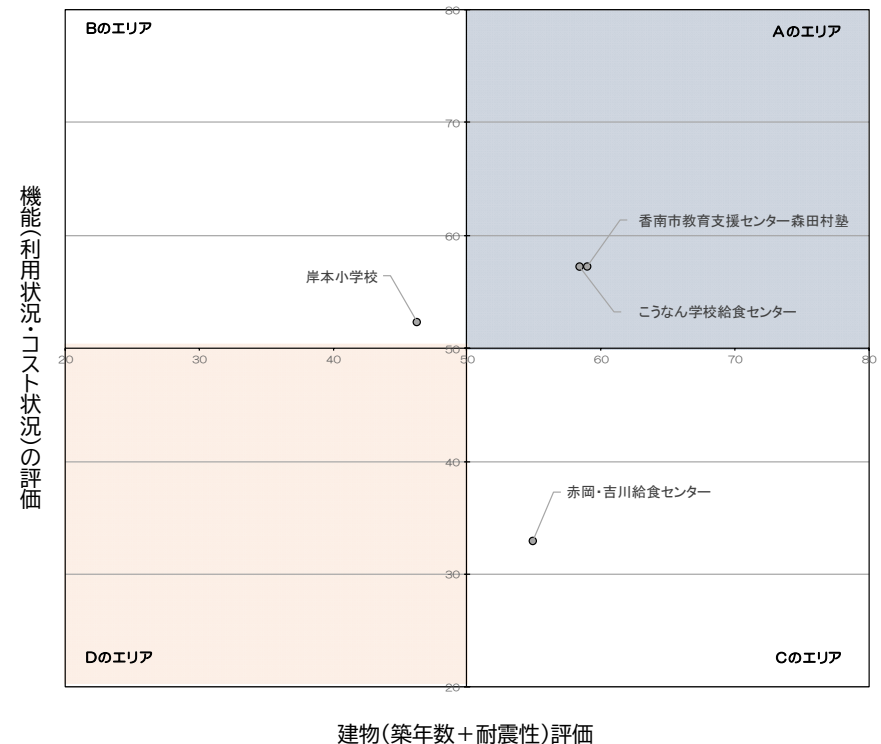
品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・老朽化状況を把握し、安心安全面を考慮しながら、効率的かつ効果的な維持修繕を行っていきます。
- ・各施設について、安全確保に必要不可欠な整備を行います。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・定期的に点検・診断を行い、危険箇所又は要補修箇所の早期発見に努め、修繕費の縮小に努めます。
- ・維持管理費用については省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。

二軸評価



06 子育て支援施設_011 保育所・幼稚園・認定こども園

施設

野市幼稚園、野市東幼稚園、香我美幼稚園、夜須幼稚園、野市保育所、野市東保育所、佐古保育所、赤岡保育所、香我美おれんじ保育所、夜須保育所、吉川みどり保育所

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・「香南市学校等の規模適正化等基本方針」に基づいた対応とします。
- ・保育所及び幼稚園における利用状況は、野市地区を中心として保育の利用希望者が増えており、市内の施設(公立及び私立を含めて)だけでは受け入れが困難な状況があり、市外の施設も含めて利用調整をしています。また、市内施設においても特に野市地区では希望する施設への入所が大変難しい状況となっています。そのため、全施設継続運営としたうえで、未就学児童の人口の動向を把握し、施設の再配置や民間施設との役割分担を検討します。
- ・将来的な人口異動や少子化の進展次第では、津波浸水想定区域を考慮しながら、統廃合や再編、最適な施設数や施設面積について検討します。

品質の適正性に関する基本的な考え方

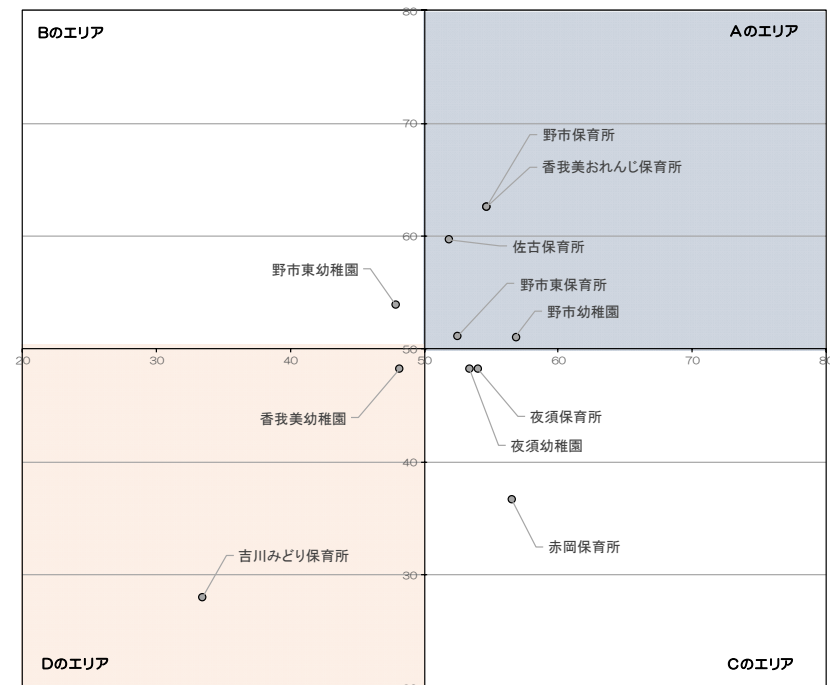
- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・切れ目のない子育て支援に必要な施設やサービスを一つに集約した認定こども園の検討など、これまで以上に住民が安心して子どもを産み育てやすい環境づくりを目指します。
- ・各施設について、老朽化状況を把握し、安心安全面を考慮しながら、効率的かつ効果的な維持修繕を行っていきます。
- ・保育環境備品を計画的に更新するとともに、園庭の遊具等の点検改善を行い、快適に過ごせる環境づくりを行います。
- ・幼稚園施設として求められる機能水準を保つため、必要となる各施設の改修及び教材器具等の整備に努めます。施設改修等履歴などの情報を把握し、適切な時期に改修・更新できるように努めます。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・定期的に点検・診断を行い、危険箇所又は要補修箇所の早期発見に努め、修繕費の縮小に努めます。
- ・維持管理費用については省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。

二軸評価

機能(利用状況・コスト状況)の評価



建物(築年数+耐震性)評価

06 子育て支援施設_012 幼児・児童施設

施 設

野市小学校 第一・第四児童クラブ、野市小学校 第二児童クラブ、野市小学校 第三児童クラブ、野市東小学校 第一児童クラブ、野市東小学校 第二児童クラブ、佐古小学校 第一児童クラブ、佐古小学校 第二児童クラブ、コスモス第一学童クラブ、コスモス第二学童クラブ、夜須はーと児童くらぶ、総合子育て支援センター「にこなん」

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・「香南市学校等の規模適正化等基本方針」に基づいた対応とします。
- ・利用状況等を勘案しながら、健全育成活動のための施設整備を行います。

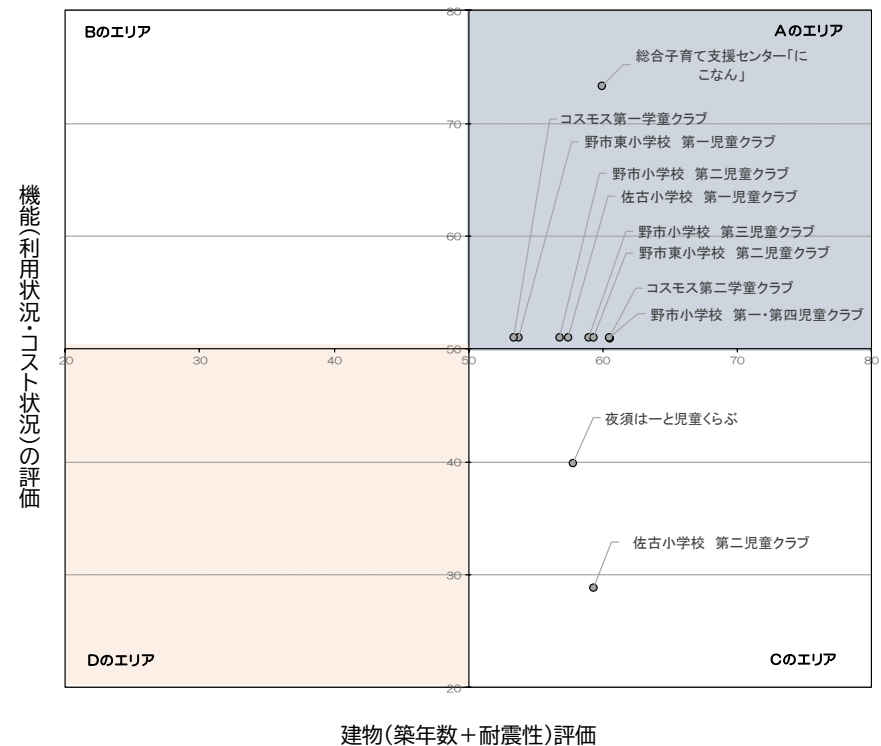
品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・老朽化状況を把握し、安心安全面を考慮しながら、効率的かつ効果的な維持修繕を行っていきます。
- ・各施設について、安全確保に必要不可欠な整備を行います。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・放課後児童クラブについては、民間活力の導入等も視野に入れ、より良い生活の場を提供し、サービスの向上と運営の効率化を図ることを検討します。
- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・定期的に点検・診断を行い、危険箇所又は要補修箇所の早期発見に努め、修繕費の縮小に努めます。
- ・維持管理費用については省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。

二軸評価



07 保健・福祉施設_013 保健施設

施 設

赤岡保健センター、香我美総合保健福祉センター、大峰の里

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・社会的情勢等によって変化する利用状況や必要性について確認しつつ、市民サービスの質を落とさないよう、継続・廃止等適正配置について検討します。
- ・本市における日常生活圏域は市内全域となっていますが、地区別・施設間距離・施設間連携等に配慮した施設配置について、継続的に検討していきます。
- ・大峰の里については、令和7年度に夜須防災コミュニティセンターが整備されることを念頭に廃止を含めた検討を行う。

※現在の利用状況：赤岡保健センター__若杉児童クラブ

香我美総合保健福祉センター__支所、社会福祉協議会

大峰の里__現状倉庫・空家状態

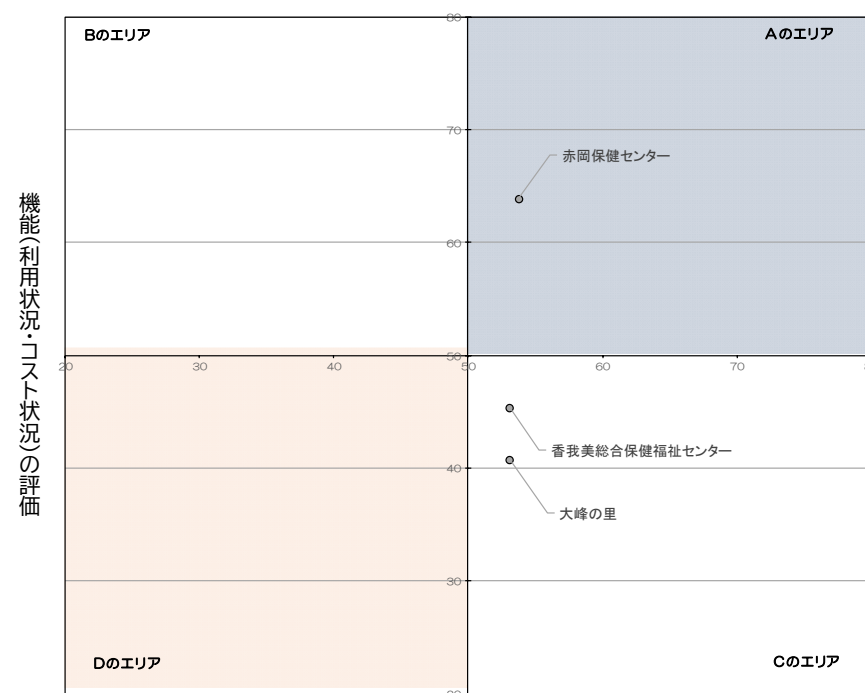
品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・社会的な背景やニーズに合せたサービス提供を推進します。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・維持管理費用については省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。
- ・利便性の向上や社会的要求水準を維持しながら、施設の利用率を高め、業務の効率化や運営の合理化により、コスト削減を推進していきます。

二軸評価



07 保健・福祉施設_014 高齢福祉施設

施 設

香我美高齢者生活福祉センター みかんの里、老人憩の家白岩荘、東部老人憩の家、手結山老人憩の家、十ノ木老人里の家、西十ノ木老人憩の家、細川老人里の家、羽尾老人憩の家

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・社会的情勢等によって変化する利用状況や必要性について確認しつつ、市民サービスの質を落とさないよう、継続・廃止等適正配置について検討します。
- ・将来の高齢者人口の見込みから、既存施設については、基本的に継続とし、そのうえで、「地域包括ケアシステム」構築の為に必要な施設の整備や配置について、柔軟に対応できる体制を検討します。

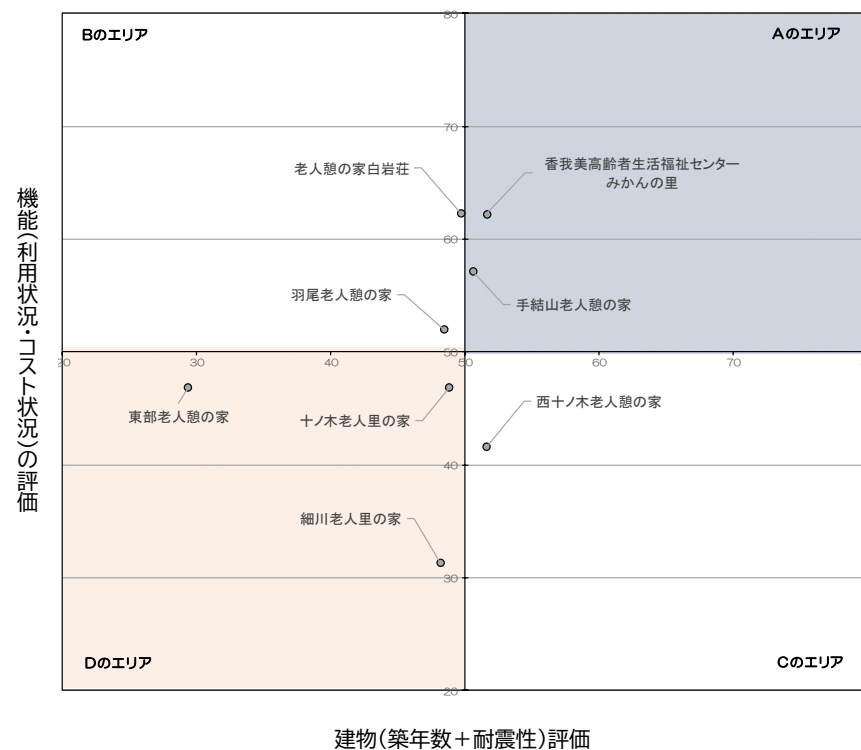
品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・高齢者福祉サービスのあり方として、社会的な背景やニーズに合せたサービス提供を推進します。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・維持管理費用については省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。
- ・定期的な点検と早期の対応で、計画的な維持修繕を行うことで、施設の長期的な利用とコストダウンを図ります。
- ・施設の運営について、効率化と機能性を重視し、指定管理や民間委託、その他民間施設との連携等について検討します。

二軸評価



07 保健・福祉施設_015 その他社会福祉施設

施 設

赤岡市民館、健康増進交流施設、大型共同作業場(グリーンネット工場)、夜須福祉センター

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・施設の性質上域外への移転が困難な施設については、『継続』を目指します。
- ・大型共同作業場については、香南市大型共同作業場運営審議会に諮り、民間への譲渡や廃止について検討します。
- ・夜須福祉センターについては、高台への施設整備に伴う機能移転を念頭に、廃止を含めた検討を行います。

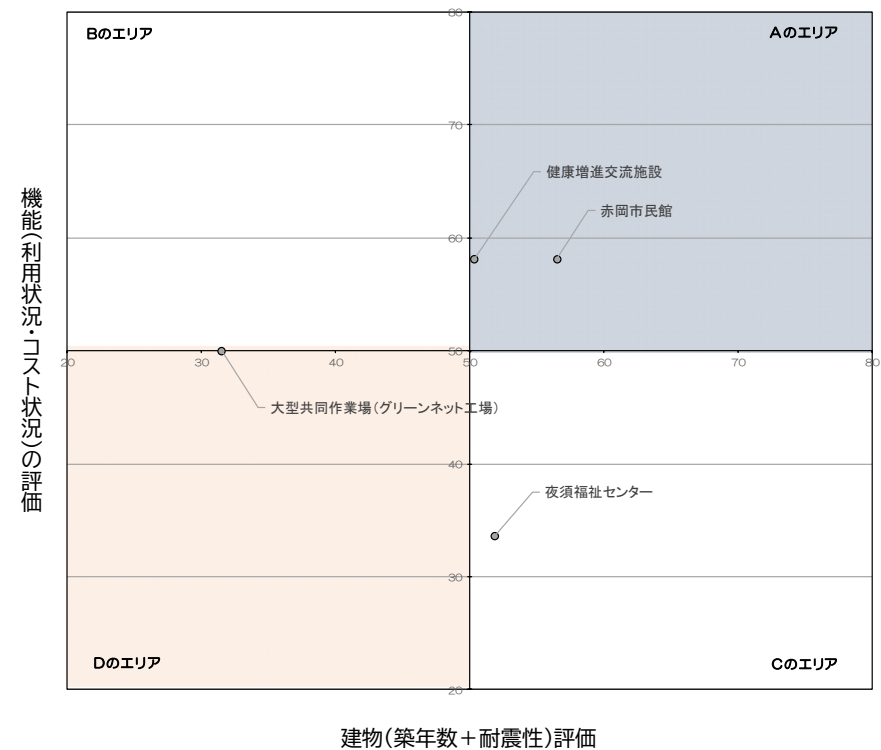
品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・定期的な点検と早期の対応で、計画的な維持修繕を行うことで、施設の長期的な利用とコストダウンを図ります。
- ・維持管理費用については省エネ対策や外部委託等によるコストダウンの方法を検討します。
- ・利便性の向上や社会的要求水準を維持しながら、施設の利用率を高め、業務の効率化や運営の合理化により、コスト削減を推進していきます。

二軸評価



08 医療施設_016 医療施設

施 設

山北診療所

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・一定の利用者が見込まれる医療施設であることから、基本的に『継続』を目指します。
- ・人口変動や時代の流れ、近隣民間医療施設の配置状況に応じて、施設のあり方や運営方法について柔軟な対応を目指します。

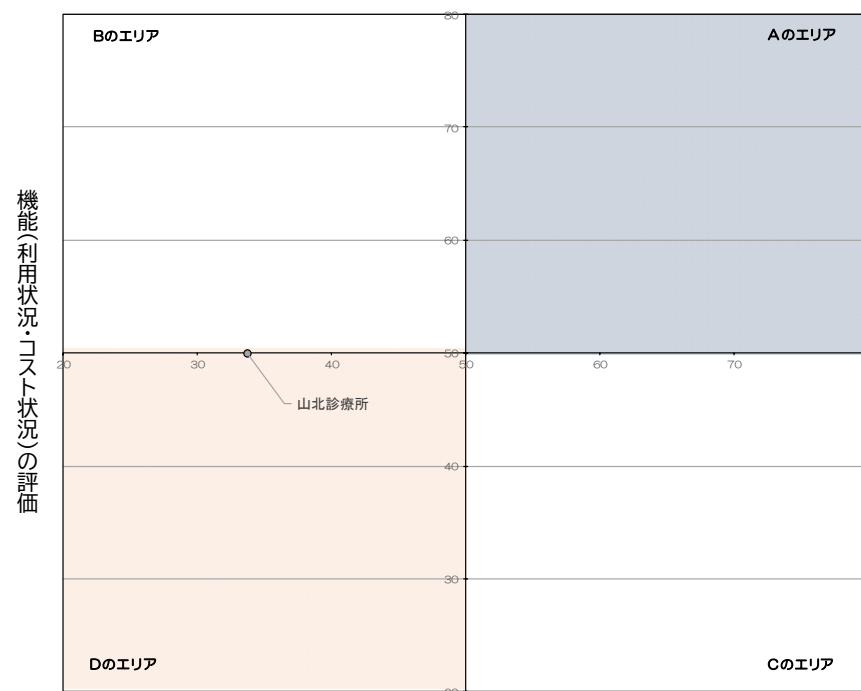
品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・基本的な方針として、『継続』を念頭に、市民から求められる医療・健康サービスの提供ができる施設であるよう、維持管理に努めます。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・施設の老朽化状況を把握して、早期の対応と計画的な維持修繕を行うことで、施設の長期的な利用とコストダウンを図ります。
- ・老朽化状況を把握した上で、「更新」、「改修」、「代替施設」等過度な財政負担のない運営方法を目指します。

二軸評価



09 行政系施設_017 庁舎等

施 設

香南市役所、香南市役所 西事務所、農業構造改善センター

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・庁舎は代替施設の確保が困難な施設であることから、基本的に『継続』を目指します。
- ・人口変動や時代の流れに応じて、施設のあり方や規模について柔軟な対応を目指します。

品質の適正性に関する基本的な考え方

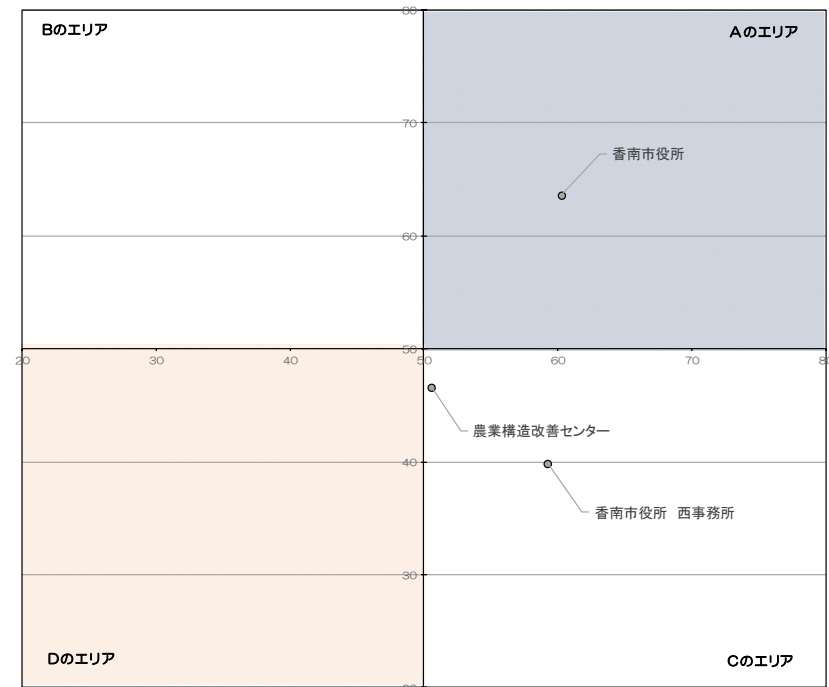
- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化を図ります。
- ・市民の生活環境を守る重要な施設であることから、予防保全的観点により、施設の能力を十分に発揮できるよう、定期的な点検と保全により、健全な状態を維持します。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。

二軸評価

機能(利用状況・コスト状況)の評価



建物(築年数+耐震性)評価

09 行政系施設_018 消防施設

施 設

香南市消防本部・消防署、野市分団屯所、香宗分団屯所、赤岡分団屯所、香我美第一分団屯所(徳王子)、香我美第一分団屯所(岸本)、香我美第一分団屯所(山南)、香我美第二分団屯所(山北)、香我美第二分団屯所(東川)、香我美第二分団屯所(西川)、夜須第一分団屯所(坪井)、夜須第一分団屯所(手結山)、夜須第一分団屯所(出口)、夜須第一分団屯所(西山)、夜須第二分団屯所(上夜須)、夜須第二分団屯所(夜須川)、夜須第二分団屯所(国光)、夜須第二分団屯所(細川)、夜須第二分団屯所(羽尾)、吉川分団屯所

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・消防本部・消防署や消防屯所は代替施設の確保が困難な施設であり、地域防災計画に防災拠点として示されている14の屯所は防災拠点に位置付けられていることから、基本的に『継続』を目指します。
- ・規模の小さい施設については、人口変動や時代の流れに応じて、施設のあり方や有無について柔軟な対応を目指します。

品質の適正性に関する基本的な考え方

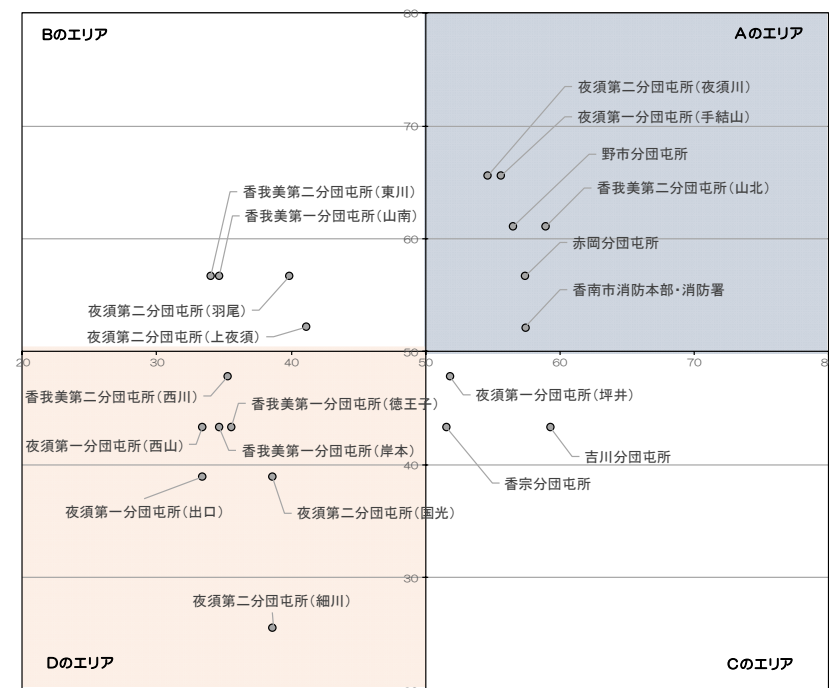
- ・市民の生活を守る活動に必要な施設であることから、予防保全的観点により、施設の能力を十分に発揮できるよう、定期的な点検と保全により、健全な状態を維持します。
- ・消防署の更新周期は、機能維持の観点から30年程度を目安とします。
- ・消防屯所は長寿命化ではなく、期間を定めて更新することを検討します。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・施設の老朽化状況を把握して、早期の対応と計画的な維持修繕を行うことで、施設の長期的な利用とコストダウンを図ります。

二軸評価

機能(利用状況・コスト状況)の評価



建物(築年数+耐震性)評価

09 行政系施設_019 その他行政系施設

施 設

みどり野倉庫、夜須公民館 教育委員会倉庫、クグツ倉庫、野市防災備蓄倉庫、吉川備蓄倉庫、学校給食用米予冷库、一時保管庫 西佐古、一時保管庫 赤岡、一時保管庫 吉川、香南市役所南駐車場 倉庫、香我美庁舎車庫兼倉庫、旧吉川庁舎、旧吉川総合センター、徳王子倉庫

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・書庫や倉庫は、文書や災害備蓄品の保管場所として一定規模の確保が必要な施設であることから、長寿命化を図ったうえでの『継続』を基本としますが、将来的には集約化による削減を目指します。
- ・人口変動や時代の流れに応じて、施設のあり方や有無について柔軟な対応を目指します。

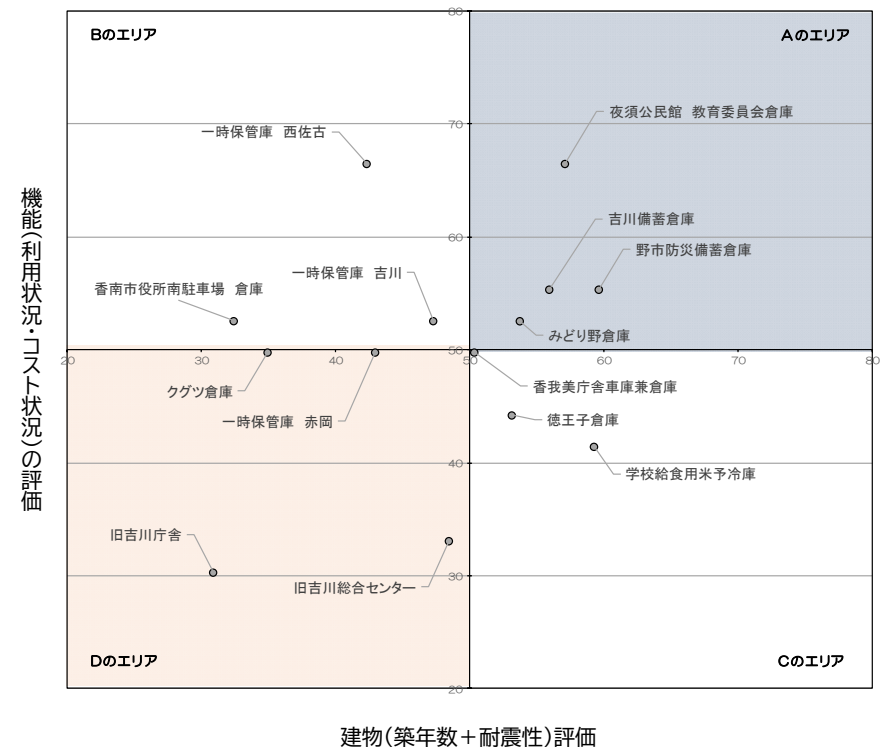
品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・文書や資機材を守る重要な施設であることから、定期的な点検と保全により、健全な状態を維持します。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・施設の老朽化状況を把握して、早期の対応と計画的な維持修繕を行うことで、施設の長期的な利用とコストダウンを図ります。

二軸評価



10 公営住宅_020 公営住宅

施 設

石家北団地、石家南団地、西野北団地、兎田団地、元町団地 A・B、元町団地 C、栄町団地 D、栄町団地 E、栄町団地 F、栄町団地 G、栄町団地 H、栄町団地 I、栄町団地 J、栄町団地 K、栄町団地 L、寿町団地、中浜団地、中浜団地、第 2 浜松団地、別所山団地 A、別所山団地 B、別所山団地、須留田団地、内田団地、曙団地 A、曙団地 B、曙団地 C、曙団地 D、曙団地 E、曙団地 F、曙団地 G、寿団地 A、寿団地 B、寿団地 C、寿団地 D、寿団地 E、日の出団地 A、日の出団地 B、幸町団地 A、幸町団地 B、南町団地、浜松団地、青木団地、岸本団地 第 2A、岸本団地 第 2B、岸本 3 団地 第 3A～G、岸本 3 団地 第 3H～N、岸本 3 団地 第 3O～T、すだれ団地、的場団地、的場第 2 団地、鳴子第 1 団地、鳴子第 2 団地、山北 特定公共賃貸住宅、ハピネスかがみ、山根土居団地、コヤト団地、新町団地 A、新町団地 B、新町団地 C、菖蒲谷団地 一、菖蒲谷団地 老、菖蒲谷団地 単、行間団地 A、行間団地 B、行間団地 C、行間団地 D、行間団地 E、行間団地 F、横町団地、神楽畠団地、下大境団地 A、下大境団地 B、下大境団地 C、住吉丸北団地 C、住吉丸北団地 D、新浜団地 B、新浜団地 C、瀬戸団地 A、瀬戸団地 B、東北団地、津野畠団地 A、津野畠団地 B、津野畠団地 C、住吉前団地 A、住吉前団地 B、住吉前団地 C、住吉前団地 D、東浜団地 A、東浜団地 B、東浜団地 C、東浜団地 D、東浜団地 E、長畠団地 A、長畠団地 B、長畠団地 C、長畠団地 D、長畠団地 E、長畠団地 F、長畠団地 G、長畠団地 H、長畠団地 I、新畑団地 A、新畑団地 B、新畑団地 C、新畑団地 D、松ヶ瀬団地、中南団地、養蔵団地、西土居辻団地 A、西土居辻団地 B、戎堂ノ丸団地、四反地団地 A、四反地団地 B、東浜松団地 A、東浜松団地 B、南中曽団地、浜口団地、北新田団地、亦右衛門邸団地、泉神社丸団地、九六ノ前団地、大辻団地

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・香南市の公共建築物延床面積の内訳の約3割を占めていますが、代替施設の確保が困難な施設であり入居者がいる間は基本的に『継続』を目指します。
- ・入居者の意向を踏まえつつ、施設の老朽化が著しくなった場合は、廃止・除却を検討します。

品質の適正性に関する基本的な考え方

- ・市民の生活環境を守る重要な施設であることから、予防保全的観点により、施設の能力を十分に発揮できるよう、定期的な点検と保全により、健全な状態を維持します。
- ・市営住宅の長寿命化計画に基づき、長寿命化を図るとともに適切な運営及び施設の維持管理を行います。

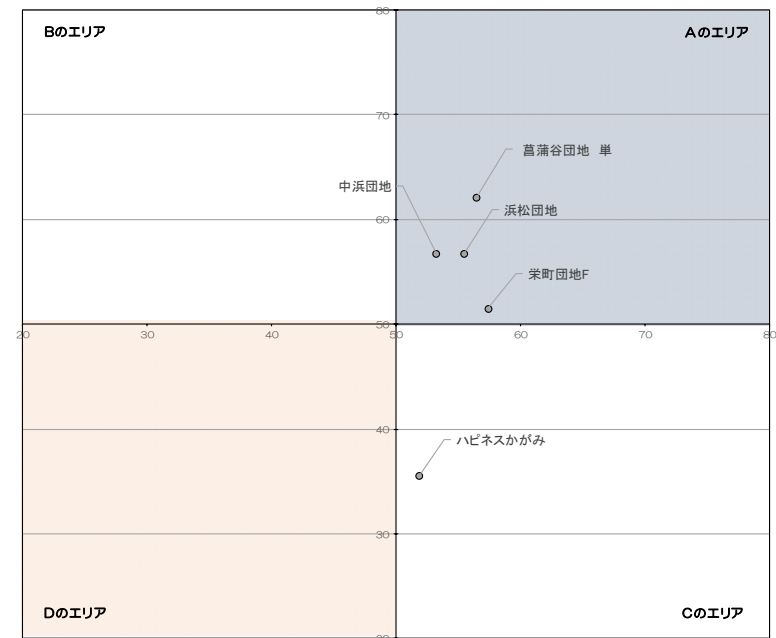
コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・更新や維持管理を行う際には、その必要性を十分検討し、適正に管理することで経費の抑制に努めます。
- ・定期的に点検・診断を行い、危険箇所又は要補修箇所の早期発見に努め、修繕費の縮小に努めます。
- ・社会的環境の変化(時代のニーズ)に左右されにくい施設であることから、長期的な利用を目指すことで、施設整備費に対する費用対効果を高めます。

二軸評価

■集合住宅

機能利用状況・コスト状況の評価

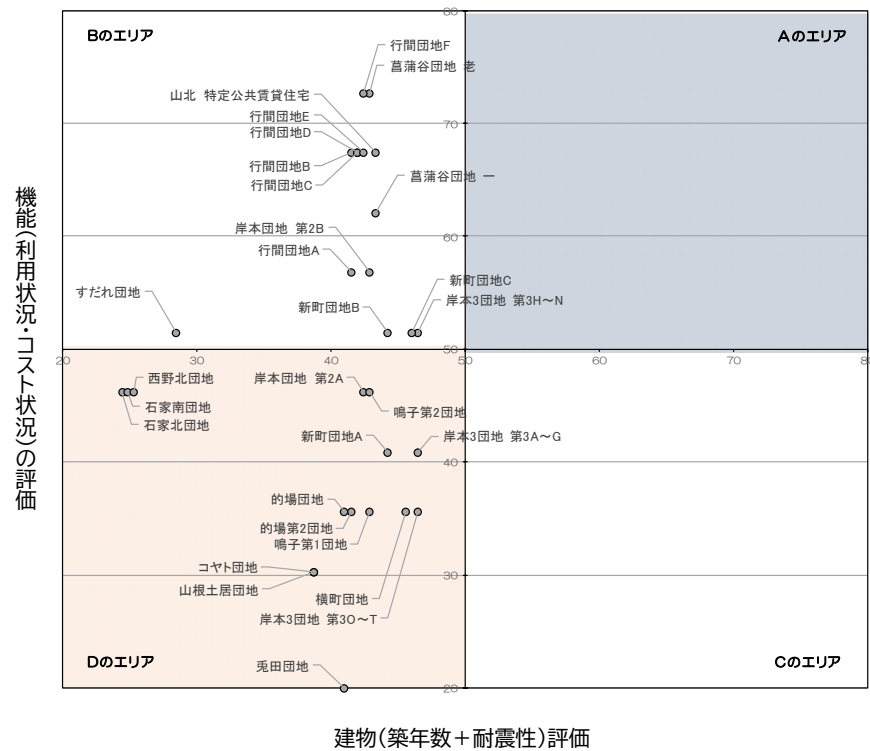


建物(築年数+耐震性)評価

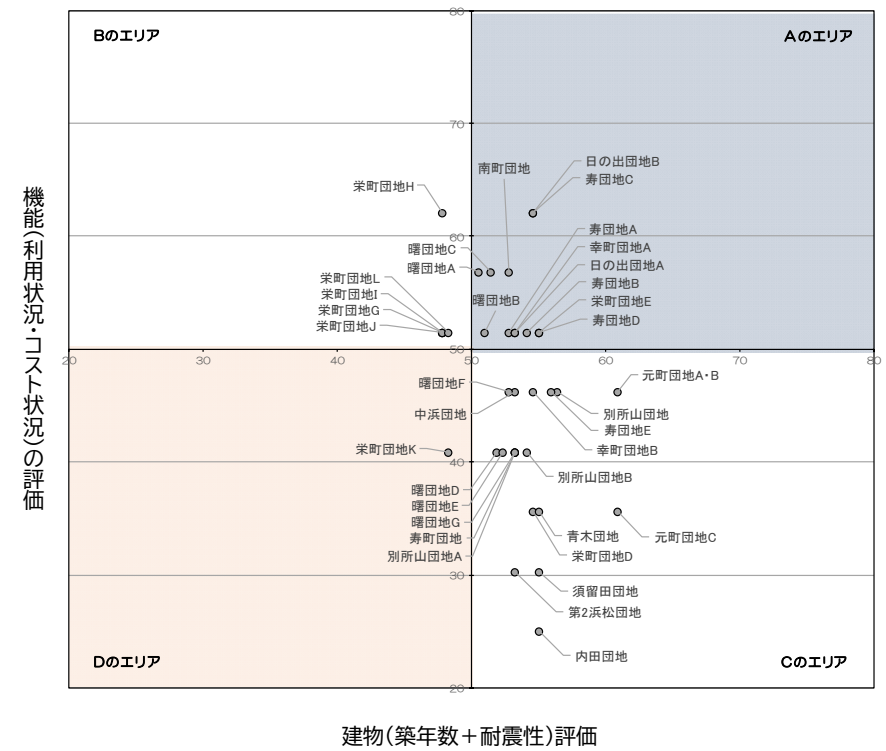
10 公営住宅_020 公営住宅

二軸評価

■大規模集合住宅以外(野市・香我美・夜須)



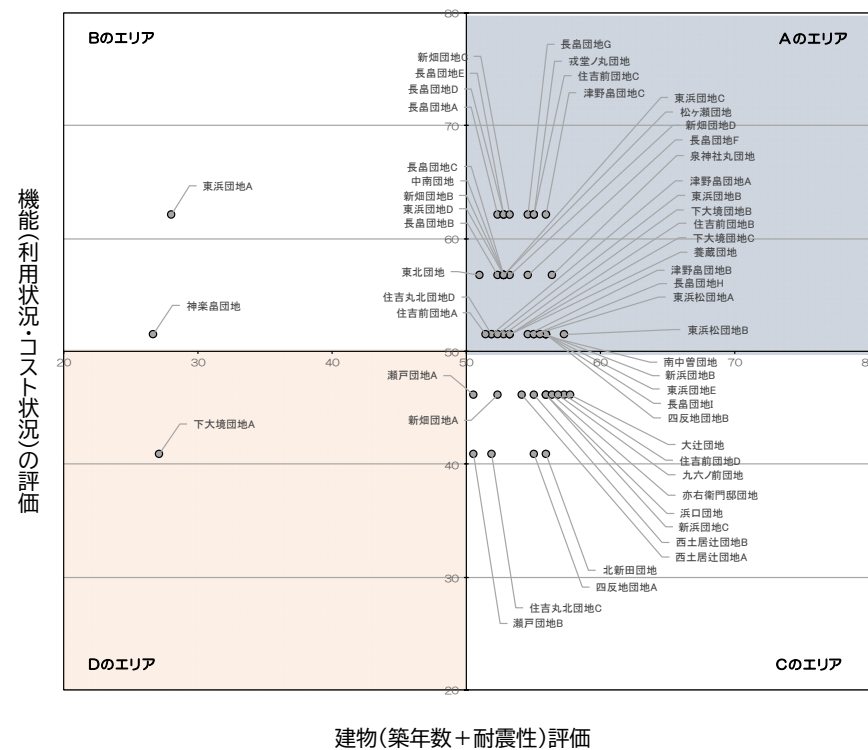
■大規模集合住宅以外(赤岡)



10 公営住宅_020 公営住宅

二軸評価

■大規模集合住宅以外(吉川)



11 公園_021 公園																									
施 設																									
元町児童公園、東荒(なぎさ)児童公園、徳王子児童遊園、東北児童公園、漁浜地区児童公園 (※対象は公園内のトイレ及び倉庫)																									
数量の適正性に関する基本的な考え方	二軸評価																								
・社会的情勢等によって変化する利用状況や必要性について確認しつつ、市民サービスの質を落とさないよう、継続・廃止等適正配置について検討します。 ・利用状況を見ながら、地元への説明を行い、集約化・廃止を検討します。 ※現在の利用状況：徳王子児童遊園及び元町児童公園のトイレ以外は常時施設をしており、利用停止としています。	機能(利用状況・コスト状況)の評価 <table><caption>二軸評価データ</caption><thead><tr><th>施設名</th><th>建物(築年数+耐震性)評価 (X)</th><th>機能(利用状況・コスト状況)の評価 (Y)</th><th>エリア</th></tr></thead><tbody><tr><td>徳王子児童遊園</td><td>35</td><td>65</td><td>B</td></tr><tr><td>元町児童公園</td><td>35</td><td>55</td><td>B</td></tr><tr><td>東荒(なぎさ)児童公園</td><td>55</td><td>60</td><td>A</td></tr><tr><td>漁浜地区児童公園</td><td>60</td><td>55</td><td>A</td></tr><tr><td>東北児童公園</td><td>35</td><td>30</td><td>D</td></tr></tbody></table> 建物(築年数+耐震性)評価	施設名	建物(築年数+耐震性)評価 (X)	機能(利用状況・コスト状況)の評価 (Y)	エリア	徳王子児童遊園	35	65	B	元町児童公園	35	55	B	東荒(なぎさ)児童公園	55	60	A	漁浜地区児童公園	60	55	A	東北児童公園	35	30	D
施設名		建物(築年数+耐震性)評価 (X)	機能(利用状況・コスト状況)の評価 (Y)	エリア																					
徳王子児童遊園		35	65	B																					
元町児童公園	35	55	B																						
東荒(なぎさ)児童公園	55	60	A																						
漁浜地区児童公園	60	55	A																						
東北児童公園	35	30	D																						
品質の適正性に関する基本的な考え方																									
・予防保全的観点により、定期的な点検と保全により、健全な状態を維持する。																									
コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方																									
・定期的に点検・診断を行い、危険箇所又は要補修箇所の早期発見に努め、修繕費の縮小に努めます。 ・社会的環境の変化(時代のニーズ)に左右されにくい施設であることから、長期的な利用を目指すことで、施設整備費に対する費用対効果を高めます。																									

12 供給処理施設_022 供給処理施設

施 設

土居排水機場、清水川排水機場、横井排水機場、江見排水機場、香我美第一排水機場、香我美第二排水機場、千切排水機場、古川排水機場、吉原排水機場

数量の適正性に関する基本的な考え方

・代替施設の確保が困難な施設であることから、基本的に『継続』とします。

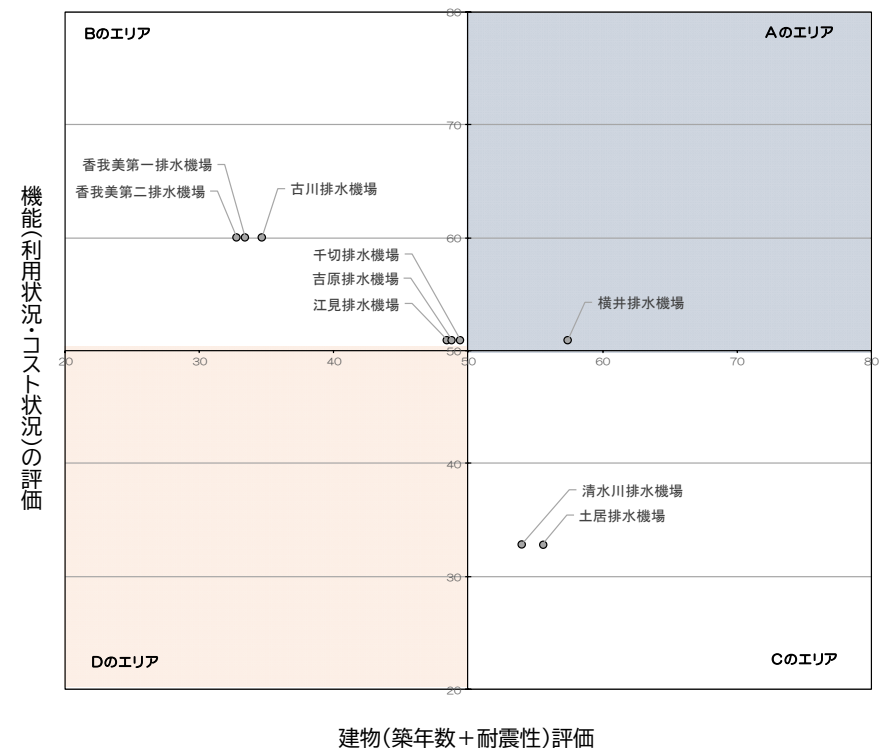
品質の適正性に関する基本的な考え方

・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
・市民の生活環境を守る重要な施設であることから、予防保全的観点により、施設の能力を十分に発揮できるよう、定期的な点検と保全により、健全な状態を維持します。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

・定期的に点検・診断を行い、危険箇所又は要補修箇所の早期発見に努め、修繕費の縮小に努めます。
・社会的環境の変化(時代のニーズ)に左右されにくい施設であることから、長期的な利用を目指すことで、施設整備費に対する費用対効果を高めます。

二軸評価



13 その他_023 その他

施 設

- ・ごめん・なはり線のいち駅舎、あかおか駅前広場、かがみ駅前広場、よしかわ駅
- ・野市町横井津波避難タワー、赤岡町幸津波避難タワー、赤岡町東荒津波避難タワー、赤岡町松ヶ瀬津波避難タワー、赤岡町南町津波避難タワー、香我美町岸本 1 区津波避難タワー、香我美町岸本 10 区津波避難タワー、夜須町第 6 地区西部津波避難タワー、吉川町東南津波避難タワー、吉川町中北津波避難タワー、吉川町浜口南部津波避難タワー、吉川町西北津波避難タワー、吉川町清水八反津波避難タワー、吉川町西南津波避難タワー、吉川町錦津波避難タワー、吉川町松ヶ瀬津波避難タワー、吉川町浜口北部津波避難タワー、赤岡町別所山津波避難タワー、香我美町岸本 8 区津波避難タワー、夜須町第 6 地区東部津波避難タワー
- ・さくらの広場トイレ、つつじの広場トイレ、東荒公衆用便所・倉庫・物置、山北交流広場公衆トイレ、塩谷公衆便所、手結公衆便所、住吉公衆便所、商店街横町公衆便所
- ・夜須教職員住宅、白岩荘、香南市連合婦人会事務所、香我美給食センター 給食室(棟)、旧赤岡保育所、岸本保育所、共同作業場(しおかぜ橋北)、野市小学校児童クラブ、旧フレンドリー(別棟)

数量の適正性に関する基本的な考え方

- ・公共交通機関の機能を有する駅舎、命を守る施設である津波避難タワーについては、基本的に『継続』を目指します。
- ・その他の施設については、社会的情勢の変化に応じて、利用状況や必要性を確認しつつ、継続・転用・廃止等適正配置について検討します。

品質の適正性に関する基本的な考え方

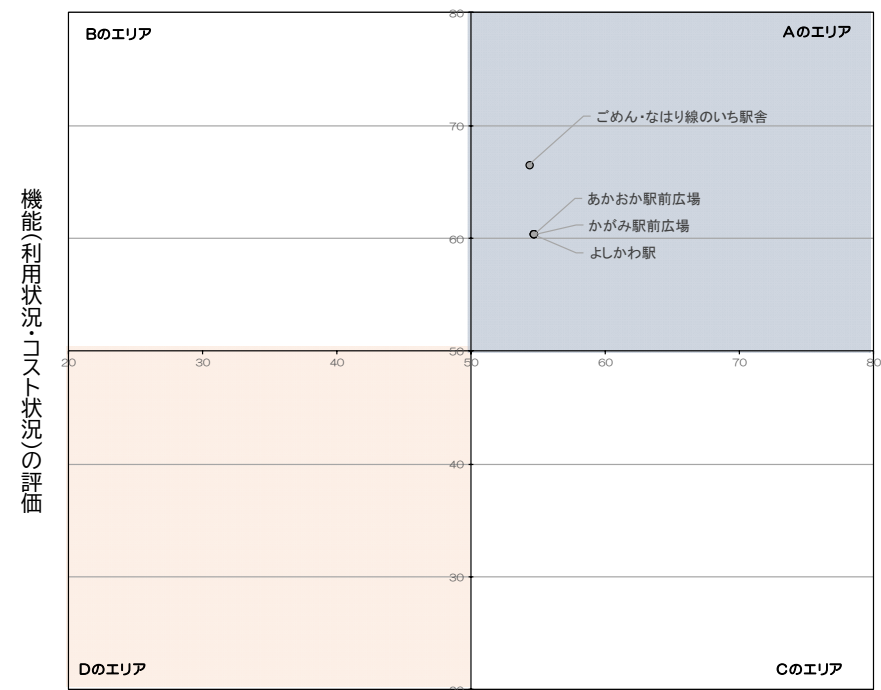
- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・各施設において、耐用年数や施設点検結果等を参考に、計画的かつ効果的な維持修繕に取り組み、長寿命化が可能なものは長寿命化を図ります。
- ・施設の用途や利用状況を把握したうえで、利用率の高い施設、重要性の高い施設については、危険箇所又は要補修箇所の早期発見に努め、修繕費の縮小に努めます。

コスト(財務)の適正性に関する基本的な考え方

- ・使用されていない施設や老朽化が進行している施設については、建物の状態を見ながら、代替施設の検討、現有資産の民間等への譲渡や解体処分も視野に入れた検討を行います。
- ・施設の維持管理や運営方法について、民間、地元等への委託等を含めた合理化を検討します。

二軸評価

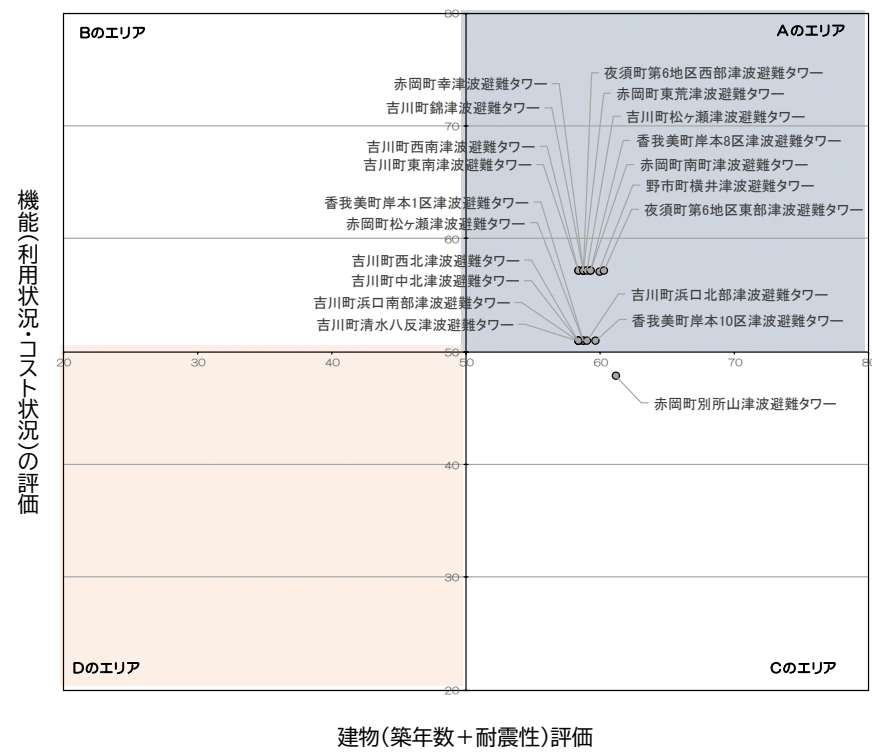
■駅舎



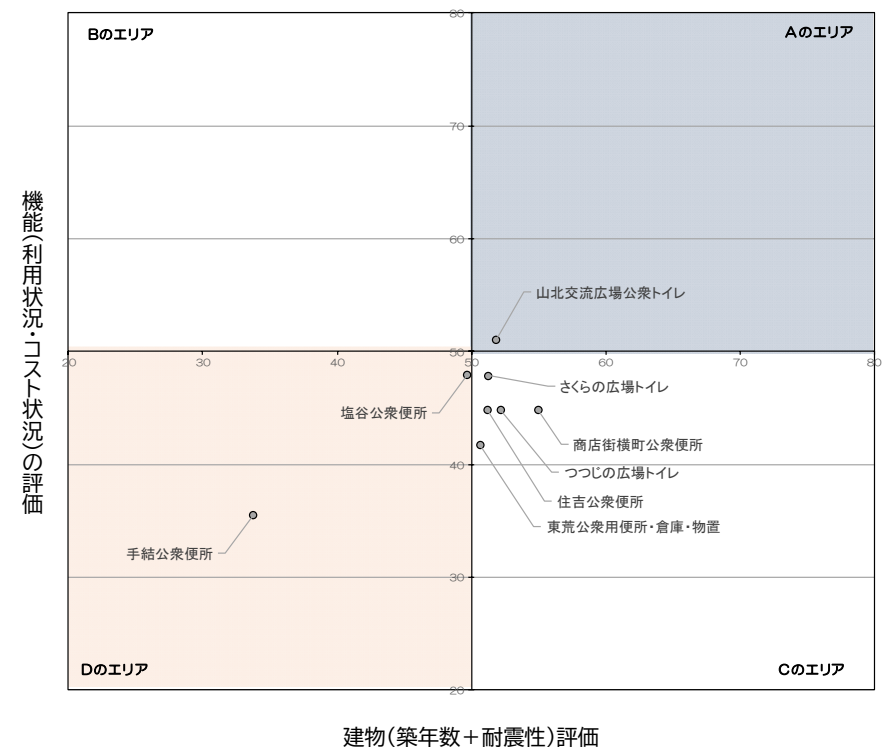
13 その他_023 その他

二軸評価

■津波避難タワー



■公衆トイレ



13 その他_023 その他

二軸評価

■その他

